



富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報 No.17

富山市の遺跡物語



富山城跡で見つかった戦国時代の居館の堀跡

総曲輪4丁目地内で行った富山城跡三ノ丸の発掘調査で、中世・近世富山城に関する遺構のほか、室町時代の中世荘園「富山郷」の集落跡と戦国時代の有力武家の居館跡を検出しました。当地は城が造られる前から富山の歴史上重要な場所であったことが分かりました。(調査の詳細はp6~8 参照)。

また、現地説明会では県内外から約200名の参加者が集まり、興味深そうに見学しておられました。

目 次

史跡この1年	2	X 寄贈	32
埋蔵文化財発掘調査概要報告	6	XI 組織・事業費	32
事業概要		研究報告1 富山市婦中町田島地内で見つかった石棒について(細辻嘉門・三上智大)	33
I 埋蔵文化財調査	14	研究報告2 西町地内埋没樹木について (堀内大介・高橋 敦・千葉博俊)	37
II 遺跡地図管理	18	研究余話	
III 富山城・城下町の調査	19	I 富山県内の近代「病院」銘入り陶器瓶について (鹿島昌也)	41
IV 史跡の保護・管理	21	II 富山城下町の井戸について (近藤穎子)	49
V 展示・普及	25	III 上滝不動磨崖仏について (古川知明)	53
VI 刊行物	27		
VII 活用	28		
VIII 調査研究	29		
IX 研修等参加	32		

北代縄文広場この1年－平成27年度－

北代縄文広場の管理運営は、長岡地区自治振興会に委託しています。広場や史跡北代遺跡の説明、展示解説、縄文土器づくりや火起こしなど体験学習のお手伝いは、北代縄文広場ボランティアの会が担っています。

平成27年度は、地元の長岡地区ふるさとづくり推進協議会との共催で“来場者15万人達成記念”北代縄文サマーフェスタや「縄文冬まつり」・「縄文朝市」等、多くの行事が開催され、市民の交流に活用されました。また、老朽化した堅穴住居1棟の部分修理を行いました。広場外周の木柵も老朽化が著しい部分を取り除いて、金属製の横断防止柵に置き換え、来場者の安全性を高めました。

●来場15万人達成

平成11年4月29日にオープンした縄文広場は、平成27年8月12日に来場15万人という記念すべき日を迎えるました。この節目にご来場いただいたのは、縄文土器づくり体験に訪れた富山市立呉羽中学校1年生の土田休蓮さん、松浦 暖さん、柳清亞沙さん、庄司隆汰さん、森 永志さん、深田勇一さんの6人です。

富山市北代縄文広場ボランティアの会などスタッフ一同でお出迎えした後、富山市埋蔵文化財センターの古川知明所長、富山市長岡地区自治振興会の中山敏明会長があいさつし、ボランティアの会の西村盛一会長とあわせ、全員でくす玉を割ってお祝いしました。来場15万人の記念品として、ボランティアの会の会員がこの日のために丹精込めて製作した手づくりの縄文土器を贈呈しました。

土田さんから「小学生の時から何回も遊びに来ていたので、15万人目になれてうれしい。」と感想の言葉をいただき、地元の子どもたちが縄文広場に愛着をもって過ごしてくれてきたことを一同たいへんうれしく感じました。



●悠久の森2015サテライト会場イベント“来場者15万人達成記念”北代縄文サマーフェスタ

平成27年8月23日に、来賓（田畠裕明衆議院議員・藤井清則富山市議会議員）のご臨席



わの舞の皆さんによる幻想的な演舞



ノリノリのCity BBの皆さん

の下で来場 15 万人達成を祝った後、わの舞の皆さんが、まるで縄文時代の北代で舞っているかのような幻想的な演舞を披露してくださいました。その後は、長岡地区住民の皆さんによるダンスパフォーマンスや富山市役所職員によるバンド ‘City BB’ コンサート、ピングゲームなどが催され、400 名を超える多くの世代が交流する夏の楽しい思い出となりました。

●平成 27 年度ニッセイ財団 “生き生きシニア活動顕彰”

富山市北代縄文広場ボランティアの会は、元気な高齢者が主体となって行う地域貢献・社会貢献活動に対して、県知事の推薦に基づき日本生命財団によって “生き生きシニア活動顕彰” 団体に選考され、7 月 29 日に目録贈呈式が行われました。

昨年受賞した “ボランティア活動推進富山県民会議会長賞” に続く栄誉であり、スタッフ一同、今後も地域の文化財を守り伝え、多くの市民に親しまれるような縄文広場にしたいと気持ちを新たにしています。

●土屋根堅穴住居（復元建物 6）解説会と本年度修理工事

平成 26 年度に長寿命化改修工事を終えた住居について、平成 27 年 4 月 25 日に解説会を開催し、約 80 人の参加がありました。これまで黒土屋根で復元してきた土屋根堅穴住居について、史跡北代遺跡の発掘調査成果を重視して管理困難と思われる赤土屋根で復元する際に行なったさまざまな工夫（堅穴の温氣対策、屋根の温氣対策・排水対策・軽量化策・くずれ防止策など）を紹介しました。主に見えないところで行ったこれらの工夫によって、1 年が経過した現在も問題は生じていません。

この他、本年度は土屋根堅穴住居（復元建物 2）や広場外周の木柵について、劣化部分の取替工事を行いました。

●北代縄文館ミニ企画展「栗山コレクションにみる北代遺跡」

平成 28 年 1 月 14 日から 3 月 27 日まで、富山市考古資料館が所蔵する「栗山コレクション」（栗山邦二さんの寄贈資料）から北代遺跡を探りました。史跡北代遺跡に関わる先人を顕彰する 2 回目のミニ企画展で、約 6,200 点の栗山コレクションのなかから北代遺跡の縄文時代遺物全 66 点を展示しました。すべてが展示されることは初めての機会でした。展示品から、栗山さんの調査が狩猟活動の拠点だった北代遺跡の特徴を正しく捉えていたこと、栗山さんが考古学研究の道に進んだのは北代遺跡を訪れたのがきっかけになったこと、こんにち縄文広場として整備された北代遺跡が破壊の危機を回避でき、保存されてきたのは栗山さんなど多くの先人の活躍があったからであるなどを紹介しました。（小黒智久）



やまとじゅうせき 安田城跡歴史の広場この1年—平成27年度—

安田城跡歴史の広場は、歴史学習だけでなく、四季折々の風景が楽しめる憩いの場となっています。曲輪をめぐる堀は睡蓮の名所となっており、見頃となる6月には色とりどりに咲く花を目当てに多くの人々が訪れます。冬には雪化粧の立山連峰をバックにした城跡が眺望でき、撮影スポットとしても親しまれています。

また、地元朝日地区の地域活性化の場としても活用されています。8月22日には、毎年恒例の第23回安田城月見の宴(安田城月見の宴実行委員会主催)が開催され、戦国時代ながらの少年少女武者行列や剣舞、民謡などで賑わいました。夜には千灯もの提灯が水面に映り、城跡を幻想的に演出しました。



●社会に学ぶ『14歳の挑戦』事業

7月10日、呉羽・芝園・西部中学校2年生計3名が広場の維持管理業務を体験しました。当事業は、職場体験を通して生徒の規範意識や社会性を高めることを目的として市が毎年行っています。広い広場の除草は根気がいる地道な作業ですが、生徒たちは来場者が気持ち良く利用できるよう、最後までまじめに取り組んでいました。ねぎらいの言葉をかけられたのが心に残ったようです。



●夏休み子ども歴史講座(2回開催)

①秀吉と成政の戦いを見つめた城 安田城～学んだ歴史をレポートしよう～

7月31日、小学4～6年生約30名が安田城の歴史や特徴について学び、新聞づくりに挑戦しました。講師は、新庄北小学校の笹原克彦教諭と神通碧小学校の堀泰洋教諭です。

まずは資料館で、安田城の歴史について講師の解説と映像で学びました。安田城が秀吉の全国統一に関係する城であることを知って驚く児童もいました。



次は、外にお城の探検です。堀の外周を約20分かけて歩き、城の大きさや出入り口を確かめました。敵兵の気分で、右郭から二の丸、本丸へと城内に進んでいくと、土橋を渡る際に狙い打ちされやすいことに気づきました。野外模型で、曲輪を土橋で繋いだ安田城の構造を確認し、敵が攻めにくくするために工夫された設計であることを学びました。また、土星は登るのが大変な急斜面であり、上からは下方にいる敵兵が狙いやすいことも分かりました。土星のはぎとり断面からは、土を幾重にも積み重ねて頑丈な土星を築こうとした当時の人々の知恵と苦労を感じ取りました。



そのほか、白鳥城や富山城など関連する城の位置を確かめたり、出土品を観察したりしながら、皆熱心に先生の解説に耳を傾けていました。

最後に、資料館で城について分かったことや感じたことを記事にまとめて、オリジナルの新聞を作りました。「城や戦についてもっと調べたい」「新聞は夏休みの自由研究にしたい」という声も聞かれるなど、郷土の城や歴史への探究心を高める良いきっかけとなりました。

②富山城櫓御門のペーパークラフトをつくろう

8月12日、児童とその家族25名が富山城にあった二階櫓門のペーパークラフト工作に挑戦しました。

工作に取りかかる前にまず、二階櫓門が富山城の中枢を守る重要な門であったこと、櫓門の石垣が大手町交差点付近で発見されたことなどの解説を受けました。

工作では、屋根などの細かいパーツの切り貼りに苦労しながらも、家族と協力して約1時間真剣に取り組みました。幅30cm、高さ9cmのミニ櫓門が完成すると、児童は皆満足した様子で、「家の玄関に飾りたい」と話す家族もいました。親子で楽しく歴史に触れた夏休みの1日となりました。



●歴史講座（2回開催）

①「城郭遺構から読み解く佐々成政討伐後について」 佐伯哲也氏（城郭研究家）

10月21日、佐伯哲也氏による講座を開催しました。

白鳥城・大峪城・安田城は、天正13年の佐々成政攻めにあたり前田氏（あるいは豊臣氏）によって大改修（あるいは築城）されたとされています。



しかし、土木技術者でもある佐伯氏の計算によると、大峪城の築城には1,000人の土木作業員が1日12時間働いても1年以上かかるそうです。また、前田氏がこの地に進軍できたのは守山・木船・増山城の落城後であり、それから成政降伏までは7日間程度しかないため、その間に築城・改修したとする前述の説は現実的ではないとのことでした。

また、大峪城の築城者は前田氏と考えるが、その時期は神通川以西が前田領となってからであり、神通川以東にあった佐々領の監視が目的であったとの見解を述べられました。

②「文字資料にみる富山の歴史について」 木本秀樹氏（安田城跡資料館員、越中史壇会副会長）

3月10日、木本秀樹氏による講座を開催しました。

文字を記録する場合、和紙に書かれたものが古文書として残されています。さらに考古資料としての文字資料、なかでも木簡や墨書き土器の出土は、全国的に膨大な数量に上っています。そのほか、土器・瓦に刻書されたものや漆紙文書なども出土しています。



富山市内の遺跡から出土した墨書き土器や木簡を例示して、出土遺物と文字とを一体的にとらえるとともに、文献史料を介してその文字のもつ社会的背景や当時の制度にも触れる機会を得ました。また7、8世紀の古代の宮都から出土した越中国関係の文字資料の紹介では、当時の地方支配の一端をかいま見ることができました。

●資料館内に新コーナーを設置しました

富山市をはじめとした県内の主要城郭32城の縄張り図を配布する「縄張り図でめぐる富山の城」コーナーを新設しました。縄張り図は、城郭研究家の佐伯哲也氏にご協力いただきて作製したものです。また、城郭関連の書籍を集めたミニ図書コーナーも設けました。お城をさらに楽しんでいただくためにご活用ください。（大野英子）



調査概要報告① 三ノ丸の下に中世荘園「富山郷」が存在か！？

富山城跡
とやまじょうあと

1 遺跡のあらまし

(総曲輪四丁目地内)

この城跡は、富山市街地中心部に位置し、藩政期富山城本丸・西ノ丸跡が現在の富山城址公園となっています。城址公園の下では、中世富山城が見つかっています。

中世富山城は、天文12(1543)年頃に神保長職が築城したと伝えられています。その後、上杉謙信による攻略(永禄3(1560)年・天正元(1573)年)、一向一揆衆の占拠(元亀3(1571)年)などの戦いの舞台となっています。天正10年、織田方が上杉方から富山城を奪回し、佐々成政の居城となりました。同13年、豊臣秀吉の越中征討で成政が降伏し、城は秀吉により破却されました。

慶長10(1605)年、二代加賀藩主前田利長が隠居城として、破却されていた富山城を整備しました(慶長期富山城)。しかし、4年後の大火で城は焼失してしまいました。

寛永16(1639)年、前田利次に加賀藩から10万石が分与され、富山藩が成立しました。寛文元(1661)年に利次は仮居していた富山城を修理し、以後、城は富山藩主の居城となりました(藩政期富山城)。

明治4(1871)年の廃藩置県後に本丸御殿や二ノ丸二階櫓御門は解体され、外堀と内堀の一部は埋められました。また、二ノ丸・三ノ丸跡は民有地に払い下げられました。



発掘調査区（上が北）

2 調査の概要

平成26年度に引き続き旧総曲輪小学校跡地活用事業に伴い、富山城三ノ丸内で3,565.5m²の発掘調査を行いました。調査の結果、室町時代(約600～550年前)、戦国時代(約550～350年前)、江戸時代(350年前～150年前)、明治～昭和時代(約150～60年前)の遺構が見つかりました。

出土遺物には、土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、瀬戸、美濃、中国製青磁、中国製白磁、瓦器、近世かわらけ、越中瀬戸、唐津、伊万里、近世陶磁器、近代陶磁器、木製品(漆器、箸、下駄、曲物、木札、杭)、石製品(五輪塔、石塔婆、石臼、石皿、碁石)、金属製品(煙管、かんざし)、土鍤、輪羽口など古代から近現代までのものがありました。

3 室町後期の中世荘園「富山郷」の集落

「コ」の字に巡る溝(幅1.1m、深さ0.6m)、この溝と南北方向に平行して走る溝(幅1.1～2.4m、深さ0.6～1.2m)数条が見つかりました。溝内から出土した中世土師器・中国製青磁の年代および放射性炭素年代(¹⁴C)測定の結果から、この溝は室町後期(14世紀後半から15世紀前半)に作られたことが分かりました。



室町後期の区画溝

平成17年度の城址公園東部(現在の千歳御門地点)の発掘調査で、溝と同時期の武家居館に関係した遺構が見つかっており、武家居館周辺

に營まれた方形に区画する溝を持つ集落があったことが分かりました。

富山城周辺は、『吉見詮頼寄進状』(応永 5(1398)年)に記される「外山郷」があつた地域と考えられています。区画溝と文献史料が書かれた年代が一致しており、この区画溝を持つ集落が、文献史料に表れる「外山(富山)郷」の集落と考えられます。

4 戦国前期の有力武家居館

室町後期の区画溝よりも大型化し、L字に曲がる堀(幅 4.1m、深さ 1.8m)が見つかりました。長さは北堀が 50m 以上、西堀が 30m 以上あります。堀内から出土した遺物の年代から戦国前期(15世紀後半～16世紀前半)の武家居館を取り囲む堀と考えられます。

居館があつた頃、「富山柳町(富山郷)と馳川対岸にあつた柳町を指す」が二尊院から越中守護畠山氏に守護請されていたことが、『畠山政長直務支配承諾状』(文明 19(1487)年)から推測されています。このことから、今回見つかった居館が畠山氏に関係する武家の居館であった可能性があります。



戦国前期の堀

5 中世富山城

戦国後期～江戸前期(16世紀後半～17世紀前半)の堀が、南北の 2箇所で見つかりました。

南堀(幅 11.5m、深さ 2.4m、長さ 22m 以上)は、調査区南端にあります。南堀が掘削される以前には、南東から北西方向に流れる河川があり、その河川は北西 120m 地点へと延びていたことを確認しました(9p 参照)。堀は人為的な埋め戻しをしていること、堀底から戦国末期(16世紀末～17世紀初頭)の遺物が出土することから、南堀は中世富山城の時期に掘られ、1605年の慶長期富山城造成に伴い埋められたものと考えられます。



戦国後期の南堀

北堀(深さ 1.75m、幅・長さは不明)は、旧小学校敷地北西端にあり、天保 2(1831)年の大火(浜田焼)の整地土の下から見つかりました。堀の底付近に堆積した焼土混じり層の放射性炭素年代測定の結果、戦国後期(16世紀後半)の年代を示しました。このことから、堀は中世富山城の時期には掘られていたものと考えられます。堀は人為的な埋め戻しが見られないこと、堀内から江戸前期(17世紀代)の遺物が出土することから、1800 年頃までに自然埋没したとみられます。しかし、江戸前期の古絵図(『越中国富山古之城之図』(正保 4(1647)年)・『万治年間富山旧市街図』(寛文 3(1663)～6 年))には、この堀は描かれていません。



戦国後期の北堀

中世富山城について書かれた往来物『富山之記』には、城の各出入口には小島氏や水越氏など神保氏の家臣が配置されていたと書かれており、城郭の周りには家臣団の住む武家屋敷町があつたことが伺えます。今回見つかった2箇所の堀は、中世富山城または武家屋敷町を含む城下町を囲んでいた堀と考えられます。

平成15・16年度の城址公園内の試掘調査で中世富山城の堀が見つかっていますが、中世富山城の規模や構造は未だに不明であり、この2箇所の堀の発見は、中世富山城（城下町を含む）の規模や構造を考える上で重要です。

曲輪部分では、区画溝、井戸、かわらけ廃棄土坑などの城・城下町に関わる戦国後期の遺構が見つかっています。かわらけ廃棄土坑は、城内または城下町で行われていた酒宴の片付けの跡です。全部で7基見つかっており、土坑の規模は、大きいもので2.8m×3.0m、小さいもので0.45m×0.6mがあり、大小様々な酒宴が開かれていたことが分かります。



戦国後期のかわらけ廃棄土坑

6 慶長期富山城・藩政期富山城の三ノ丸

慶長期富山城や藩政期富山城の三ノ丸には、富田家、村家などの富山藩家老などを務めた重臣屋敷が建っていました。江戸前期（17世紀前半）の屋敷地境を示す区画溝（幅1.3～1.8m、深さ0.3～0.5m）が調査区南東で見つかりました。この区画溝の真下に室町後期の区画溝があつたことから、江戸前期の屋敷地境が室町後期の地境を踏襲していたことが分かりました。

江戸中期（18世紀初頭）に埋没した広い窪地（幅18.5m、深さ0.75m、長さ20m以上）が調査区中央で見つかりました。本丸内や近世富山城下町内にも、四角く土を探掘した跡があり、窪地は造成用の土を取った採土跡が埋まつたものである可能性があります。



江戸前期と室町後期の区画溝



江戸後期の馬屋・櫓列

江戸後期（18世紀後半～19世紀）の大型土坑（幅6m×長さ18m以上）とそれに伴う柵列（1.2m間隔）が調査区南東で見つかりました。安政元（1854）年の『越中富山御城下絵図』に「馬場」と描かかれている箇所にあたることから、大型土坑が馬屋であった可能性があります。

その他、位置を変えて掘り直された井戸や陶磁器を大量廃棄した土坑など富山藩重臣屋敷の暮らしぶりを示す遺構も見つかっています。

7まとめ

調査の結果、三ノ丸の下には室町時代の荘園「富山郷」や中世富山城に関わる遺構が広がっていることがわかり、中世以前の富山城周辺の変遷を知ることができました。（堀内大介）

調査概要報告 2 三ノ丸の中を通る謎の大溝

富山城跡

(丸の内二丁目地内)

1 遺跡のあらまし

調査区は富山城跡の三ノ丸南西部に位置し、重臣屋敷が置かれた場所にあたります。すぐ南側は外堀が東西に延びていました。

東側で行った旧総曲輪小学校跡地の今年度発掘調査では、井戸、堀、区画溝、建物跡など、江戸時代の重臣屋敷の遺構や戦国時代以前の遺構を確認しましたが(6~8p参照)、同じ三ノ丸でも本調査区は遺構の様子に違いがあります。

2 調査の概要

青葉幼稚園の移転新築工事に伴う調査の結果、大規模な溝の存在が明らかになりました。南北方向の溝と分岐する東西方向の溝からなり、幅10~16m、深さ1m以上の規模があります。

溝の中からは、17世紀代を中心とする土師器皿、越中瀬戸、瀬戸美濃、青磁、伊万里、唐津などの陶磁器のほか、下駄、漆器、建築材、箸など多くの木製品が出土しました。特に箸は約280本もの量が一ヶ所から折り重なるように出土しました。宴席での使用後にまとめて捨てられた可能性があります。

3 まとめ

今回検出した溝は、これだけ大規模にもかかわらず、17世紀の『越中国富山古城之図』や『万治年間富山旧市街図』などの絵図に描かれていません。

この溝の性格として、三ノ丸の重臣屋敷地を分ける区画溝が考えられますが、これは通常3~6mの幅であり、規模が大きすぎます。また、周囲の堀や街路などの地割りとややずれているため、自然の河川跡の可能性もあります。東側約120mの旧総曲輪小学校跡地の調査では、この溝とつながる可能性のある河川跡を確認しています。しかし、なぜ河川跡が残されていたのかを説明する必要があります。

溝の性格について謎が残り、今後明らかにしなければならない課題です。 (野垣好史)



溝の落ち込み



出土した主な陶磁器と箸

調査概要報告3 中心市街地で弥生時代の方形周溝墓群見つかる

せんごくぜきいせき
千石町遺跡

1 遺跡のあらまし

(富山市千石町地内)

この遺跡は、富市中心市街地の千石町地内にあります。これまでの調査で、室町～江戸時代を中心とする集落跡が確認されていました。平成27年の宅地造成に先立つ調査では、それよりも古い時代の弥生時代中期(約2,100年前)の方形周溝墓5基、溝を検出しました。

富山県下における弥生時代中期の方形周溝墓は、これまで県西部のみで確認していましたが、今回初めて県東部の富市中心市街地から見つかりました。

2 調査の概要

今回の調査では、弥生時代中期の方形周溝墓5基、溝、室町時代の溝、江戸時代の土坑・溝を検出しました。

弥生時代中期の方形周溝墓は富山県下で27基あります。形は正方形か長方形で、標準的な大きさは長辺が6～8m、短辺が6m前後です。千石町遺跡の1・2号墓は長辺が9m台で、県下では3番目に大きいものです。

方形周溝墓5基のうち3基は、周溝の隅が1箇所切れることで共通しています。これは、調査区北側の地形が小高くなっていることから、墓道を意識している可能性があります。周溝からはとむらいの儀式で供えられた弥生土器が出土しました。土器はすべて弥生時代中期に作られたものであることから、墓は短期間に造営されたと考えられます。



調査区（北東上空から）

3 弥生時代中期の洪水跡

今回の調査区から南西へ100mの場所の地点で、方形周溝墓群と同じ年代の河川洪水で流され、地下6mに埋没した樹木



6本が発見されました。この地点の北側から今回の調査地にかけては当時高台部であり、弥生時代中期の洪水後、人々が安定した高台を居住域・墓域として選んだと推測されます。

(近藤顕子)

調査概要報告4 縄文時代のキャンプサイトか

塩下野II遺跡ほか

1 遺跡のあらまし

(塩地内)

調査地は旧大沢野町北部、神通川右岸の扇頂部に近い低位段丘上に位置します。東側の中位段丘上には縄文時代中期の大規模集落である中大久保遺跡があり、南側には延喜式内社の多久比礼志神社があります。

耕作放棄地等有効活用モデル事業塩地区のは場整備工事に先立ち、156,000 m²を対象に試掘調査を実施しました。この事業対象範囲には、内A遺跡、内B遺跡、下野A遺跡、下野B遺跡の4遺跡が含まれていました。

2 試掘調査の概要

試掘調査の結果、内A遺跡と内B遺跡については範囲の一部変更、下野A遺跡と下野B遺跡については遺跡の所在が確認されませんでした。その一方で、内C遺跡と塩下野I遺跡、塩下野II遺跡、塩下野III遺跡が新規発見されました。

内C遺跡では、溝跡が見つかり中世土師皿が1点出土しました。

塩下野I遺跡では、中世の溝や土坑などが見つかり、縄文土器や中世土師器が出土しました。

塩下野II遺跡では、縄文時代晚期の土器や石器が出土しました。

塩下野III遺跡では、縄文時代晚期の土器が出土したほか、珠洲焼が出土する中世期の溝が検出されました。

3 塩下野II遺跡の発掘調査

塩下野II遺跡の用水路工事にかかる45m²について発掘調査を実施しました。調査では、縄文時代晚期の土器が出土するビットなどを



内C遺跡 溝から中世土師器出土状況



塩下野II遺跡 発掘調査区遠景（西から）

検出しました。出土した打製石斧は、自然薯などの根菜類を採取するための道具として使用されていたことが推測されます。

塩下野II遺跡は、縄文人が長期にわたって定住する集落ではなく、中位段丘上の集落に暮らす人々が、狩猟や食料採取のために一時的な拠点として利用したキャンプサイト的な性格の集落だったと推測されます。



塩下野II遺跡などから出土した縄文土器・石器

(鹿島昌也)

浜黒崎野田・平榎遺跡、横越遺跡

(野田、横越地内)

1 遺跡のあらまし

標高約3~4mの常願寺川下流左岸の平野に位置し、両遺跡は南北に隣接しています。

これまでの調査から、浜黒崎野田・平榎遺跡は縄文時代から江戸時代までの長期にわたる集落であることが明らかになっています。特に縄文時代後期・晚期には川跡から膨大な量の土器が出土し、大規模な集落の存在が推測されます。横越遺跡では、奈良・平安時代の溝が見つかっています。

2 調査の概要

県営は場整備事業に伴い、水田4.6haを対象に遺跡の有無を確かめる試掘調査を行いました。その結果、これまでより広範囲に遺跡が広がることが明らかになりました。

浜黒崎野田・平榎遺跡は、過去に多量の縄文土器が出土した川跡の北側から、溝や縄文土器、磨製石斧が見つかり、縄文時代の集落の北限が明確になりました。ちょうど北に向かって地形が低くなる場所を境に遺跡が存在しなくなります。

横越遺跡では、奈良・平安時代の多数の平行する溝を確認しました。畠など耕作に関係する遺構の可能性があります。溝の中からは土師器・須恵器などが出土しました。東側で行った過去の調査でも同様の溝群が見つかっており、東西160m以上の範囲に広がっていたと考えられます。



奈良・平安時代の溝群

3まとめ

両遺跡からは、縄文時代と奈良・平安時代以外にも弥生時代、古墳時代、鎌倉・室町時代、江戸時代の出土品があり、付近に長期にわたりて集落が存在したことを示します。

今回調査した場所は、標高がやや低い、集落中心部から外れた場所にあたると考えられます。これは建物跡が見つかっていないことからもわかります。現在の集落が調査地南側の微高地にあるのと同じように、常願寺川の氾濫に備えた当時の人々も微高地に居住域を構え、標高が低い今回の調査地付近では耕作等の生業活動を行うといった集落景観が想定できます。

(野垣好史)



各時代の主な出土品

調査概要報告6 弥生～古墳時代の集落の広がりを確認

打出遺跡
（打出地内）

1 遺跡のあらまし

この遺跡は、神通川下流左岸の標高約2mの緩斜状地上に立地する、縄文時代から近世にかけての複合遺跡です。これまでに富山市教育委員会や富山県文化振興財団により本調査が行われ、弥生時代終末期の集落跡や焼失住居、奈良から平安時代の道路跡や中世の集落などが見つかっています。

2 調査の成果

今回の調査は、和合中学校北側の市道内の、ガス管理設工事に伴う工事立会で、調査地は、遺跡範囲の南部から西部にあたります。

その結果、調査地の西半分で、弥生時代から近世の溝や土坑が見つかりました。

弥生～古墳時代の遺構は、溝7基・土坑8基・柱穴2基が見つかりました。古代の遺構は、溝2基・土坑1基、中世の遺構は、溝3基・土坑1基があります。近世の遺構は、溝1基・土坑1基があり、土坑は井戸と考えられます。このほか、幅の広い窪地状の遺構が、弥生時代のもの2基、中世・近世のもの各1基ずつ見つかりました。

遺物は、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・珠洲・青磁・越中瀬戸等があり、特に弥生・古墳時代の土器が多く出土しました。

3 遺跡の南～西部の状況が明らかに

今回の調査では、弥生時代から近世にかけての様々な遺構・遺物が見つかりました。特に弥生～古墳時代の遺構・遺物が多く、出土した土器の時期が弥生時代終末期から古墳時代初頭であることから、調査地周辺にこの時期の集落が存在したことが分かりました。

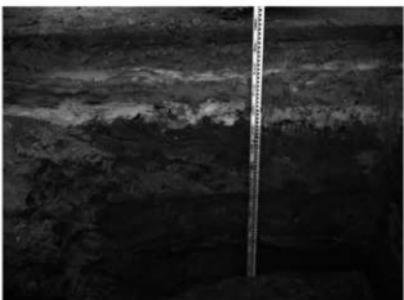
これまでの調査では、弥生～古墳時代の遺構は、集落跡が遺跡の北東部で見つかっていただけですが、今回の調査の結果、同時期の集落が遺跡の南部から西部にも広がることが分かりました。
（納屋内高史）



中・近世の溝(西から)



弥生・古墳時代から近世の土坑群(北から)



調査地の地層堆積状況(南から)

I 埋蔵文化財調査

1 調査実績

免査調査 開発に先立ち、遺跡を記録保存することなどを目的とした調査です。

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果	遺跡の種類
富山城跡 (2010442)	総曲輪4丁目	統合小学校跡地活用事業	3,380	室町柱穴、室町土坑、室町窯、戦国柱穴、戦国土坑、江戸土坑、江戸窯、戦国窯、戦国井戸、江戸柱穴、江戸土坑、江戸窯、明治柱穴、明治土坑、明治井戸／古代須恵器、古代土師器、古代土種、室町かわらけ、室町青磁、室町瓦器、戦国かわらけ、戦国窯戸、戦国美濃、戦国庆洲、戦国青磁、戦国白磁、江戸かわらけ、江戸窯中瀬戸、江戸青磁、江戸伊万里、江戸瀬戸、江戸陶磁器、明治陶磁器、明治ガラス製品、明治木札、不明木製品(漆器、箸、下駄、枕、建築部材、曲物)、不明木製品(五輪塔、石塔婆、石臼、石皿、礎石、墓石)、不明金属製品(錠管、かんざし、輪羽口)、不明食料残滓(貝、骨、種子)	城館
千石町(2010444)	千石町4丁目	宅地造成	206.6	弥生(中)万葉朝唐墓、弥生(中)唐、戦国窯、江戸土坑、江戸窯、江戸井戸、江戸柱穴、江戸土坑、江戸窯、江戸井戸、江戸窯、江戸土器、中世疾洲、中世青磁、江戸土師器、江戸窯中瀬戸、江戸青磁、江戸窯瀬戸美濃、江戸伊万里、江戸瀬戸、江戸土人形	古墳
塩下野Ⅱ (2010530)	塩下野野削	塩地区ほ場整備工事	45	調文(挽)穴、不明窯、不明土坑／調文(挽)陶文土器	集落
計3件			3,631.6		
26年度 検査(3月)					
富山城跡 (2010442)	総曲輪4丁目	統合小学校跡地活用事業	1,562	江戸窯、江戸青磁、江戸土坑、江戸ピット、明治石組水路、明治柱状造構、明治道路、明治構、明治土坑、明治ビット、中世珠洲、中世土師器、中世瀬戸美濃、江戸かわらけ、江戸窯中瀬戸、江戸瀬戸美濃、江戸京焼、江戸青磁系陶器、江戸伊万里、江戸唐津、江戸青磁、江戸青白磁、江戸金風呂製品(鏡、彌台)、江戸木製品(漆桶、箸、木筒、曲物、下駄、柄杓、部材、櫛、栓、蓋、底板、扉板)、江戸土製品(土種、輪羽口)、江戸石製品(砾石、硃、五輪塔)、明治瀬戸美濃、明治九谷、明治陶器、明治陶製部品、明治瓦、明治灰、明治木製品(漆桶、木筒、曲物、部材)、明治石製品(石臼、瓶石、硃、石塔)、明治金風呂製品(錢貨、鉢金)、不明食料残滓(炭灰末、豚骨、貝)	城館

試掘調査 開発予定地内の遺跡の有無などを確認する調査です。＊は立会調査

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
打出(2010092) *	打出	ガス新設工事	400	弥生土坑、弥生窯、中世土坑、中世窯、江戸土坑、江戸窯／陶文土器、弥生土器、古代土師器、古代須恵器、中世土器、江戸陶磁器
四方西野削 (2010003)	四方市大江池	個人住宅建築	298.98	中世土師器
大村(2010008)	南厚通字古城跡削	自動車修理工場建設	140	古代土師器、江戸磁器
大塚(2010017) *	大塚西	市道直羽本郷大塚篠改良工事	400	中世窯、中世土坑、不明窯、不明土坑／古代土師器、中世土師器、江戸窯、土種、不明木製品
大塚(2010017) *	大塚西	市道直羽本郷大塚篠改良工事	250	江戸陶磁器
今市(2010023)	八町	個人住宅建築	799	古代ピット、中世窯、中世土坑、江戸窯／古代土師器、中世土師器、中世窯、江戸越中瀬戸
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	391.49	中世土師器、江戸磁器、明治磁器、明治瓦
今市(2010023)	八町	個人住宅建築	372.73	遺跡なし
今市(2010023)	布目	個人住宅就寝舎建築	490	不明窯／弥生土器
今市(2010023)	今市	個人住宅建築	431.5	遺跡なし
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	876.48	遺跡なし
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	330.58	遺跡なし
今市(2010023)	八町	個人住宅建築	263.51	江戸窯／江戸越中瀬戸、江戸磁器
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	488.1	江戸窯／古代須恵器、江戸窯中瀬戸、江戸伊万里、江戸陶器、江戸木製品
四方荒屋 (2010026) *	四方荒屋	富山北酒井署和合出張所等移転新築主任工事に伴う電気設備工事及び機械設備工事、細溝工事	126	江戸窯、江戸磁、江戸土坑／瀬戸文土器、半俊珠洲、江戸瀬戸美濃、不明土師器
草島(2010029)	草島	太陽光発電設置工事	829	江戸窯中瀬戸、江戸磁器
米田大甕 (2010034)	米田町1丁目	(仮称)リサイクル棧建設	1,600	古代土師器、古代須恵器

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
浜黒崎野田・平復(2010042)	野田字大田割	個人住宅建築	317.89	古代土師器
浜黒崎野田・平復(2010042)	野田	経営体育成基盤整備事業	9,400	縄文溝、古代井戸、古代溝、古代土坑、古代ピット／縄文土器、縄文磨製石斧、古代土師器、古代須恵器、古代土鍋、江戸磁器
浜黒崎野田Ⅱ(2010043)	浜黒崎	経営体育成基盤整備事業	16,600	江戸溝／中世土師器、江戸越中漁戸
横庭(2010046)	横庭字延敷割	個人住宅建築	192.79	古代土師器
横庭(2010046)	野田	経営体育成基盤整備事業	20,600	古代溝、古代土坑、古代ピット／縄文土器、古墳土師器、古代土師器、古代須恵器、中世土師器、不明磯石
平復龜田(2010048)	平復	個人住宅建築	144.9	不明溝／江戸越中漁戸、江戸磁器
鰐海寺城跡(2010091)＊	鰐海寺	堺江逸原分区鰐海寺地区下水管布設工事	51	遺跡なし
小竹貝塚(2010096)	真羽町	個人住宅建築	439	遺跡なし
山寺谷Ⅱ(2010142)	真羽町字山寺谷	個人住宅建築	442	古代後壁土坑／縄文(晚)縄文土器
道分茶屋段／松(2010160)＊	道分茶屋	市道道分茶屋12号線改良工事	120	遺跡なし
真羽富田町(2010182)	北代字伊波波	駐車場造成	213	遺跡なし
北代中尾(2010183)	北代字中尾	個人住宅建築	159.61	平安土師器、江戸越中漁戸
観ヶ森南(2010187)	北代字中尾、北代字村春	個人住宅建築	268.44	遺跡なし
百塚住吉D(2010235)	宮尾	個人住宅建築	656	古代土坑、古代溝／古代須恵器、古代土師器、江戸陶磁器
豊田大塚・中吉原(2010246)	豊田本町1丁目	個人住宅建築	146.82	遺跡なし
豊田大塚・中吉原(2010246)	豊田本町2丁目	個人住宅建築	172.27	遺跡なし
新屋敷田(2010249)＊	新屋字殿田割	車庫建築	0.35	遺跡なし
下富居(2010250)	下富居1丁目字仕官割	個人住宅建築	436.72	遺跡なし
中富居(2010251)＊	中富居	市道鶴田綾田町線改良工事	17	古代土師器、中世土師器
中富居(2010251)	中富居	共同住宅建築	1,521	遺跡なし
中富居(2010251)	中富居	個人住宅建築	287	遺跡なし
中富居(2010251)	上富居3丁目	個人住宅建築	233.67	遺跡なし
中富居(2010251)	上富居3丁目	個人住宅建築	231.3	遺跡なし
中富居(2010251)	上做野字正源田割	個人住宅建築	133.51	江戸伊万里
中富居(2010251)	中富居	集合住宅建築	937.80	江戸陶磁器、不明土師器
中富居(2010251)	中富居	共同住宅建築	971	遺跡なし
水樋の場(2010256)	水樋の場	駐車場造成	383	遺跡なし
新堀(2010272)	水樋新堀	農作業場建築	158.96	遺跡なし
水樋金広・中馬場(2010286)＊	水樋中馬場	市道水樋金広中馬場線外1歳改良工事	46	中世溝、江戸不明遺構／中世株脚、江戸越前、江戸越中漁戸、江戸伊万里
田伏・佐野竹(2010298)＊	水樋田伏	市道水樋金広中馬場線外1歳改良工事	25	遺跡なし
住吉南Ⅱ(2010358)＊	住吉	市道住吉11号線改良工事	78	遺跡なし
西金届(2010373)	古沢	個人住宅建築	528	遺跡なし
西金届(2010373)＊	古沢	古沢幹線配水管布設替工事	109	遺跡なし
鳥羽山丘陵古墳群(2010410)＊	移谷字三ツ尾	鉄塔建築	2,110	遺跡なし
安田城跡(2010427)	福中町安田	個人住宅建築	164.64	江戸土坑／江戸越中漁戸、江戸磁器、江戸鉄鋤
友坂(2010429)	福中町友坂	個人住宅建築	552	古代土師器
友坂(2010429)＊	福中町友坂	下水管布設工事	50	遺跡なし

遺跡名(遺跡No.)	所 在 地	調 査 原 因	面積(m ²)	調 査 結 果
友坂(2010429)	福中町友坂	個人住宅建築	441.83	遺跡なし
友坂(2010429)	福中町友坂	個人住宅建築	440	赤生土器・古代須恵器
富山城跡 (2010442) *	丸之内2丁目	松川宿警建設工事	28	遺跡なし
富山城跡 (2010442) *	丸之内2丁目	幼稚園新築工事	473	江戸備、江戸土壌、江戸ヒット／中世かわらけ、中世珠洲、江戸かわらけ、江戸越中瀬戸、江戸唐津、江戸瀬戸美濃、江戸伊万里、江戸青磁、江戸曲物、江戸署、江戸下駄、江戸ホノ材、江戸漆器、江戸へラ木製品、江戸板状木製品、江戸棒状木製品、江戸栓、江戸釘
富山城跡 (2010442)	本丸	本丸雨水管線整備事業	84.48	遺跡なし
富山城跡 (2010442) *	絶曲輪4丁目	車庫建築	12.29	遺跡なし
富山城跡 (2010442) *	大手町	H26富山管内構造物整備工事	62	遺跡なし
富山城跡 (2010442)	絶曲輪2丁目	店舗建築	50	遺跡なし
富山城跡 (2010442) *	本丸	城址公園森々亭周辺施設整備工事	750	遺跡なし
富山城跡 (2010442) *	絶曲輪4丁目	ガス管新設工事	16	遺跡なし
千石町(2010444) *	千石町4丁目	個人住宅建築	4	遺跡なし
蓬本町(2010446)	蓬本町字一番割	宅地造成	1,864.73	江戸陶器、江戸伊万里
大泉(2010448) *	大泉中町	配水管布設替工事	33	遺跡なし
新庄城跡 (2010449) *	新庄村1丁目	新庄小学校校舎解体工事	651	遺跡なし
新庄城跡 (2010449) *	新庄村1丁目	新庄小学校校舎解体工事	651	遺跡なし
新庄城跡 (2010449) *	新庄村1丁目	新庄小学校大規模改造工事	92.17	遺跡なし
巣治町(2010506)	福中町長沢字後川	個人住宅建築	182.8	赤生土器
平岡(2010524)	平岡	個人住宅建築	33.12	遺跡なし
下邑東(2010543)	福中町羽根	資材置場造成	474	遺跡なし
黒瀬大量 (2010549)	黒瀬	個人住宅建築	45.4	中世土師器
黒瀬大量 (2010549)	黒瀬	駐車場造成	1,248	古代土師器
黒瀬大量 (2010549)	黒瀬字大屋割	宅地造成	833	古代土師器、古代須恵器
黒瀬大量 (2010549)	黒瀬字大屋割	疎地造成	12,111	中世珠洲
黒瀬大量 (2010549)	黒瀬字大屋割	事務所建築	250	古代窯(河川)／古代土師器、古代須恵器
黒崎穂田 (2010550)	黒崎字塚田割	事務所建築	433	遺跡なし
黒崎穂田 (2010550)	黒崎字寺守割	農機具倉庫建築	84	江戸越中瀬戸、江戸磁器
黒崎穂田 (2010550)	黒崎字穂田割	集合住宅建築	1,988	遺跡なし
八日町(2010551)	黒崎字松ノ木割	倉庫建築	1,102	遺跡なし
朝葉町鳥ノ木 (2010555)	福川町	個人住宅建築	272.19	奈良土師器、奈良須恵器
上野井田 (2010557)	上野	駐車場造成	1,228	古代土師器
太田中町1 (2010567) *	太田	市道太田南町5号線舗装工事	260	遺跡なし
上吉川1 (2010635)	福中町上吉川	個人住宅建築	166	遺跡なし
中名VI(2010648)	福中町中名	個人住宅建築	339.69	遺跡なし
任海宮田 (2010654) *	任海	市道任海1号線改良工事	80	遺跡なし

道路名(道路No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
下熊野(2010672)	安養寺	個人住宅建築	330.2	道路なし
二俣(2010674) *	石田	市道石田7号線改良工事	35	道路なし
右田北(2010675)	石田	個人住宅建築	158.65	弥生(後)唐、弥生(後)谷地形／弥生土器
右田北(2010675) *	石田	個人住宅建築	3	道路なし
石田打宮(2010676)	小杉	駐車場造成	250	中世土師器
吉岡(2010682)	吉岡	個人住宅建築	870	道路なし
吉岡(2010682)	吉岡	個人住宅建築	229.01	道路なし
熊王寺(2010683)	熊王寺	個人住宅建築	365.79	不明(唐、不明)ピット／繩文(佛)繩文土器、圓文(晚)磁石
若竹町(2010684)	若竹町4丁目	理設段調査	209.64	道路なし
若竹町(2010684) *	熊野寺	熊野公民館改築	40	道路なし
辰尾(2010688) *	上熊野	市道安養寺上熊野線改良工事	31	道路なし
辰尾(2010688)	辰尾字沼割	土地充實	299	道路なし
辰尾(2010688) *	辰尾	市道宮保辰尾1号線改良工事	73.6	道路なし
廣園寺前路(2010691) *	布市	車庫建築	49.71	道路なし
闇(2010699)	闇	個人住宅建築	379	道路なし
水谷(2010740)	八尾町新田字新	個人住宅建築	330.36	道路なし
井田(2010745)	八尾町井田	個人住宅建築	235.15	道路なし
誠見(2010750)	八尾町誠見字ハザマ	宅地造成	1,305	繩文(中)穴、繩文(中)土坑／繩文(中)繩文土器
新村(2010761)	下大久保	駐車場造成	543.42	道路なし
内A(2010765)	穂字下野割	住居整備工事	78,000	繩文(唐)唐、繩文(晚)土坑、古代唐、中世唐／繩文(晚)繩文土器、繩文(晚)打製石斧、古代須恵器、中世土師器、中世珠渦、中世白陶、江戸唐津、江戸越中漬戸
内B(2010766)	塙字下野割	住居整備工事	78,000	繩文(晚)唐、中世唐／繩文(晚)繩文土器、古代土師器、中世土師器、江戸陶磁器、江戸唐津、江戸越中漬戸
大井(2010773) *	大井	市道上柴牧田線外2線改良工事	43	中世青磁、江戸越中漬戸、江戸かみらけ、不明磁器
上布目(2010775)	上布目	個人住宅建築	1,054	道路なし
元本宮寺跡(2010918) *	原字等容洞	堆塚復古・キーチャンター解体撤去工事	433.07	道路なし
庵谷・片掛銀山(2011020) *	片掛	市道庵谷片掛線路面改良工事	575	道路なし
猪谷間路(2011041)	猪谷李川原	駐車場造成	323	道路なし
富山城下町道路主要部(2011048)	桜木町	共同住宅建築	1,340.19	道路なし
富山城下町道路主要部(2011048)	旅飯町	礎排水雨水幹線渠造工事	55	江戸伊万里、江戸越中漬戸、江戸陶器
富山城下町道路主要部(2011048) *	松川町	疎曲輪4丁目	83	道路なし
富山城下町道路主要部(2011048) *	疎曲輪4丁目	電力引込管路新設工事	13	道路なし
富山城下町道路主要部(2011048) *	旅飯町	越前町	692.84	江戸越中漬戸、江戸伊万里
富山城下町道路主要部(2011048)	旅飯町	建物解体工事	94.34	道路なし
富山城下町道路主要部(2011048)	旅飯町	建物解体工事	112.76	道路なし
計121件(*39)			260,125.53	
26年度 総額(3月)				
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	296.99	道路なし
今出(2010023) *	布目	市道布目10号線改良工事	32	古代唐、古代土坑、古代穴、中世唐、江戸唐／古代須恵器、古代土師器、中世土師器、江戸越中漬戸
江代羽(2010025)	西中	個人住宅建築	269.43	弥生穴、弥生土坑／弥生土器
宮条南(2010055)	將中	個人住宅建築	1,065.2	道路なし
宮条南(2010055)	宮条	個人住宅建築	267.44	道路なし
水端・荒町・辻ヶ堂(2010056) *	水端辻ヶ堂	市道水端辻ヶ堂新道6号線外1線改良工事	100	道路なし

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
東若田 I (2010085)	東若田	個人住宅建築	462	遺跡なし
中富居 (2010251)	中富居	共同住宅建築	3,622.41	古代窯窓器
水橋入部 (2010263) *	水橋入部町	市道水橋入部町3号線改良工事	55	江戸木製不明遺構／古代土師器、江戸窓口美術
富山城跡 (2010442) *	本丸	案内施設整備	10	江戸陶磁器、明治レシガ
下呂東 (2010543)	下呂町羽根	資材置場建設	1,277	遺跡なし
若竹町 (2010684)	吉岡	船建築	453.37	遺跡なし
塙 (2010767)	塙字内割	個人住宅建築	53	遺跡なし
杉瀬 (2010769)	林崎	給油所建築	800	古代土師器

II 遺跡地図管理

富山市内の史跡・埋蔵文化財包蔵地の総数は1,050ヶ所、総面積は約73.45k m²です（平成28年2月末現在）。これは市域1,241.77k m²の約5.91%にあたります。これら史跡・埋蔵文化財包蔵地は富山市遺跡地図に搭載され、埋蔵文化財センター窓口のほか、インターネットでも閲覧することができます。

(1) 平成27年度の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更等（平成28年2月末現在）

No.	遺跡	面積（m ² ）	変更内容
1	浜黒崎野田・平榎遺跡（2010042）	123,800	東側範囲変更
2	平榎亀田遺跡（2010048）	252,500	北側・南側範囲変更
3	二番金草遺跡（2010372）	2,137	二番金草A遺跡と統合し、範囲変更、名称変更（旧称：二番金草B遺跡）
4	二番金草A遺跡（欠番）	—	二番金草遺跡に統合し抹消
5	横越水窪遺跡（2011049）	24,200	新規追加
6	八ヶ山林窓跡（2011050）	1,735	新規追加
7	吉野銀山遺跡（2011029）	71,600	東側範囲拡大
8	内C遺跡（2011051）	952	新規追加
9	塙下野I遺跡（2011052）	1,500	新規追加
10	塙下野II遺跡（2011053）	3,777	新規追加
11	塙下野III遺跡（2011054）	553	新規追加
12	内A遺跡（2010765）	7,098	北側・西側範囲変更
13	内B遺跡（2010766）	8,000	北側範囲変更
14	下野A遺跡（欠番）	—	抹消
15	下野B遺跡（欠番）	—	抹消

(2) 遺跡地図のインターネット公開

平成27年4月から遺跡地図を富山市ホームページで公開し、富山市内の史跡・埋蔵文化財包蔵地の範囲と名称・所在地等の概要を閲覧できるようになりました。建築・土木工事・各種開発・不動産売買の手続き等の参考にしてください。

閲覧は、富山市ホームページのトップページから、「インフォマップとやま」→「まちづくり情報マップ」→「遺跡地図」の順に進んでください。閲覧にあたっては利用条件をご確認ください。スマートフォン・タブレット端末からは閲覧できません。

※URL：<http://www2.wagmap.jp/toyama/top/>

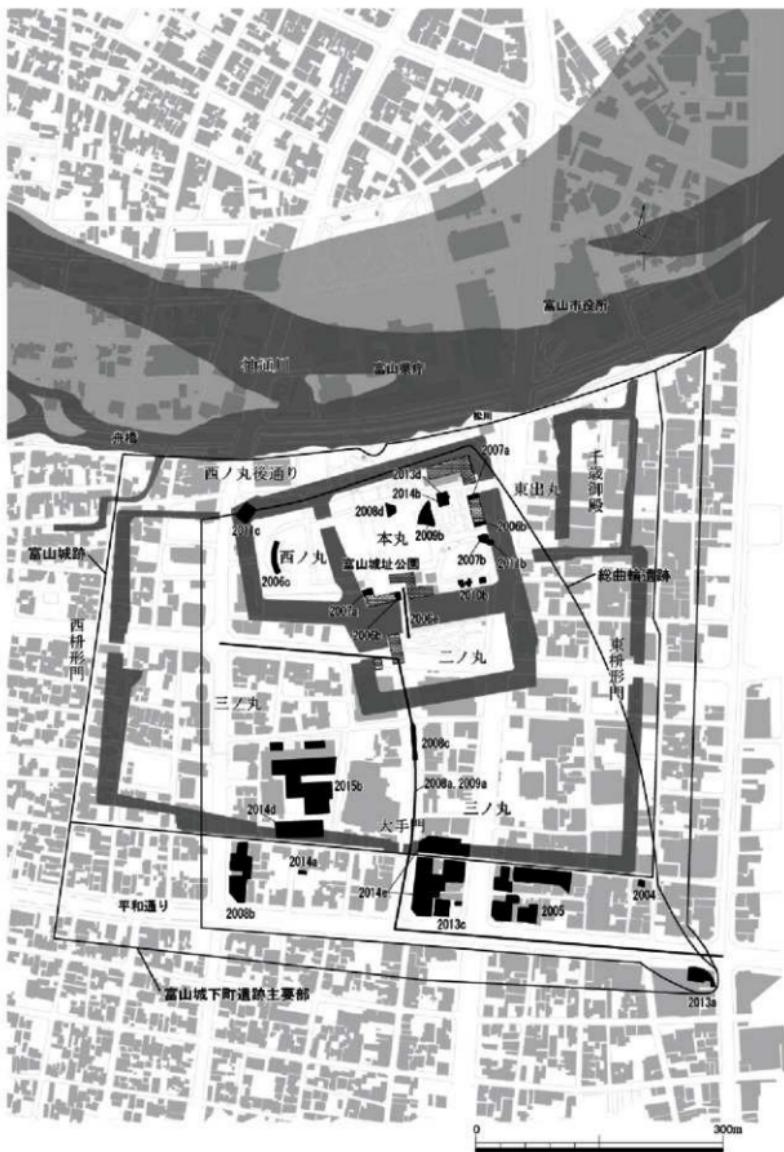
III 富山城・富山城下町の調査

富山城・富山城下町遺跡における発掘調査・工事立会は次のとおりです。

今後、調査区の名称は下表左端欄掲載の記号で表示することとします（平成28年3月刊行物から適用。本書41~52pも使用しています）。

富山城・富山城下町の調査一覧（平成28年2月末現在）

調査年度 (調査区名)	調査箇所	調査原因	調査区分	調査面積(m ²)	主な文献
2004	城下町(絶曲輪)	西町・絶曲輪地区市街地再開発	発掘調査	130	富山城跡発掘調査概要書2005
2005	城下町(一番町・絶曲輪)	絶曲輪通り南地区第一種市街地再開発	発掘調査	2,811	富山城跡発掘調査報告書2006
2006a	本丸、二ノ丸内堀	城址公園整備(堰改修)	工事立会	—	富山市の遺跡物語No8
2006b	本丸鉄門西石垣、搦手南石垣	城址公園整備(石垣解体修理)	工事立会、石垣石材調査	—	富山市の遺跡物語No8
2006c	西ノ丸	城址公園整備(ステージ建設)	発掘調査	278	富山市の遺跡物語No8
2006d	城下町(絶曲輪)	グランドプログラマ建設工事	工事立会	—	富山市の遺跡物語No9
2006e	本丸大手土塁	城址公園整備(電線管工事)	工事立会	—	富山城跡発掘調査報告書2016
2006f	本丸東辺土塁	千歳御門移築	工事立会	—	富山市の遺跡物語No9
2007a	本丸鉄門西石垣、搦手南石垣	城址公園整備(石垣解体修理)	工事立会、石垣石材調査	—	富山市の遺跡物語No9
2007b	本丸東辺土塁	城址公園整備(石垣新設)	発掘調査	112	富山城跡発掘調査報告書2016
2008a	二ノ丸、三ノ丸、城下町(一番町・越前町・絶曲輪)	市内電車敷設工事	工事立会	—	富山城跡発掘調査報告書2009
2008b	城下町(絶曲輪・絶曲輪)	絶曲輪四丁目・絶籠町地区改良建築物等整備	発掘調査	1,300	富山城跡発掘調査報告書2010
2008c	三ノ丸	市内電車敷設工事	発掘調査	187	富山城跡発掘調査報告書2009
2008d	本丸	城址公園整備(池泉整備)	発掘調査	118	富山城跡発掘調査報告書2016
2009a	二ノ丸、三ノ丸、城下町(一番町・越前町・絶曲輪)	市内電車敷設工事	工事立会	—	富山市の遺跡物語No11
2009b	本丸	城址公園整備(池泉整備)	発掘調査	370	2010
2010a	西ノ丸	城址公園整備(下水管工事等)	工事立会	—	富山市の遺跡物語No12
2010b	本丸南辺土塁	城址公園整備(石垣改修)	発掘調査	87	2011
2011a	本丸東辺土塁	城址公園整備(石垣改修)	工事立会	—	富山城跡発掘調査報告書2016
2011b	本丸東辺土塁	城址公園整備(石垣新設)	発掘調査	25	富山城跡発掘調査報告書2016
2011c	西ノ丸内堀	公共下水道松川地区分区雨水貯留施設工事	発掘調査	134	富山城跡発掘調査報告書2012
2012a	二ノ丸、三ノ丸、城下町	水道工事	工事立会	—	富山市の遺跡物語No14
2012b	本丸、西ノ丸	城址公園整備(電線管工事等)	工事立会	—	2013
2013a	城下町(西町)	西町南地区市街地再開発	発掘調査	380	富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書2014a
2013b	二ノ丸、東出丸、二ノ丸内堀	水道工事	工事立会	—	富山市の遺跡物語No15
2013c	城下町(一番町・絶曲輪)	一番町共同ビル(仮称)新築工事	発掘調査	423	2014
2013d	本丸	城址公園整備(池泉整備)	発掘調査	66	富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書2014b
2014a	城下町(絶曲輪)	レーベン富山絶曲輪レジデンス建設	発掘調査	96	富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書2014c
2014b	本丸	城址公園整備(池泉整備)	発掘調査	64	富山市の遺跡物語No16
2014c	本丸	城址公園整備(下水管工事等)	工事立会	—	2015
2014d	三ノ丸外堀	旧絶曲輪小学校跡地(第1期)	発掘調査	1,562	富山市の遺跡物語No16
2014e	城下町(一番町・絶曲輪)、三ノ丸外堀	絶曲輪西地区第一種市街地再開発	発掘調査	3,960	2015
2015a	三ノ丸	青葉幼稚園移転新築工事	工事立会	473	富山城跡・富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書2015
2015b	三ノ丸	旧絶曲輪小学校跡地(第2期)	発掘調査	3,565.5	富山市の遺跡物語No17



富山城・富山城下町調査区位置図

IV 史跡の保護・管理

1 北代縄文広場

(1) 管理

① 管理運営委託等

A 管理運営

地元の長岡地区自治振興会に広場の管理運営を委託しました。自治振興会が配置した管理人と富山市北代縄文広場ボランティアの会の会員が常駐し、広場の管理や展示解説、体験学習のお手伝いなどを行いました。

B 環境整備

広場の草刈、堅穴住居の燻し（防虫・湿気対策）、樹木剪定などは公益社団法人富山市シルバー人材センターに委託しました。この他、樹木伐採等を行いました。

C 顕彰

富山市北代縄文広場ボランティアの会は、多年にわたり元気に取り組んできたボランティア活動が地域に貢献した功績を認められ、平成27年7月29日に公益財団法人日本生命財團に「生き生きシニア活動顕彰」として地域貢献活動を顕彰されました。本顕彰は、元気な高齢者が主体となって行う地域貢献・社会貢献活動に対して富山県知事の推薦に基づいて日本生命財團が選定したものです。

② 観察

文化庁文化財部記念物課調整部門 五島昌也文化財調査官（平成27年7月2~3日）

田畠裕明衆議院議員（平成27年8月23日）

石川昭政衆議院議員（平成27年10月9日）

③ 社会に学ぶ 14歳の挑戦

広場管理運営・土器づくり体験指導補助等（ボランティア等指導）

呉羽・芝園・西部中学校（各1名） 平成27年7月6日～7月7日

呉羽中学校（3名） 平成27年7月7日～7月10日

④ その他

「第10回越中富山ふるさとチャレンジスタンプラリー」（越中富山ふるさとチャレンジ実行委員会事務局）のスタンプラリーに協力しました。

平成27年5月1日～10月16日

(2) ミニ企画展

テーマ	期間	主要展示品	入場者数	展示解説会
1 熊野川流域の縄文遺跡 若竹町遺跡・吉岡遺跡	平成27年7月15日～平成28年1月11日	縄文土器、打製石斧、磨製石斧、磨製石斧未成品、石燃、石皿、凹石、敲石	5,276人	平成27年8月23日
2 栗山コレクションによる 北代遺跡	平成28年1月14日～3月27日	縄文土器、玉、玉未成品、玉素材、打製石斧、磨製石斧、石燃、石燃未成品、石棒、石錐、剥片、三角彫形土製品、土偶、耳栓、土器片鱗など	1,112人 (2月末現在)	平成28年1月15日

(3) 施設老朽化対策事業

オープンから16年が経過し、復元建物（土屋根堅穴住居・茅葺高床倉庫）などが老朽化してきた縄文広場では、国・県の指導の下で平成22年度から復元建物等の長寿命化を目的とした改修工事を7ヶ年計画で実施しています。

本事業では、建築環境学・鉱物科学・林産加工学・木材物理学・保存科学・考古学の専門家からなる史跡北代遺跡復元建物修理検討専門家会議を組織し、会議の検討結果を踏まえて修理工事を実施しています。土屋根堅穴住居の建築・維持管理（修理）の標準設計・仕様の一つとして発信することも目指しています。

平成 27 年度は次の①～④の修理等を行いました。

①復元建物修理工事

平成 26 年度までの本事業によって確立した広場での土屋根堅穴住居の修理工法を踏まえ、復元建物 2（堅穴住居）の土間・腰壁・小屋根を修理しました。また、腐朽による傷みが激しかった主柱 1 本を取替え、主柱 4 本と出入口支柱 2 本の基部を補修しました。

②木柵修理工事

腐朽が進行していた東の広場外周の木柵を除却し、金属製の横断防止柵を新設しました（延長 50m）。

③史跡北代遺跡復元建物修理検討専門家会議

A 平成 27 年 7 月 3 日 文化庁五島昌也文化財調査官の同席の下で専門家による検討を行いました。具体的には①修理工事済の復元建物 5・6（堅穴住居）の評価、②本年度修理工事（復元建物 2）での留意点等を検討しました。この他、事業報告書における修理工事の提示方法や各委員の専門分野にかかる原稿について意見交換を行いました。

B 平成 27 年 9 月 8 日 工事中の復元建物 2 を視察して現地指導いただくと共に、指導内容を工事に反映させました。また、縄文広場では初めて赤土屋根として復元した復元建物 6 の経過について、おおむね順調に推移していると評価いただき、事業報告書作成工程を確認しました。

④復元建物 1・2・5（堅穴住居）環境調査－屋内温湿度計測、土間温湿度計測－

専門家会議委員の宮野秋彦氏・宮野則彦氏により、屋内温湿度と土間温湿度の定時観測（1 時間ごと）を継続していただきました。

専門家会議委員（敬称略）

氏名	分野	備考
宮野 秋彦	建築環境学	名古屋工業大学名誉教授
清水 正明	鉱物科学	富山大学副学長、理学部教授
藤井 義久	林産加工学	京都大学大学院農学研究科教授
宮野 則彦	木材物理学	日本大学生物資源科学部准教授
佐野 千絵	文化財保存学	(独)国立文化財機構東京文化財研究所 保存修復科学センター副センター長
西井 龍儀	考古学	富山考古学会会長・一級建築士

(4)長岡地区等行事

①長岡地区自治振興会

縄文朝市（平成 27 年 5 月～12 月の第 2・4 土曜日、全 13 回）

②長岡地区ふるさとづくり推進協議会

悠久の森 2015 サテライト会場イベント

“来場者 15 万人達成記念” 北代縄文サマーフェスタ

（平成 27 年 8 月 23 日、埋蔵文化財センターと共に）

縄文冬まつり（平成 28 年 1 月 16 日）

③北代三区町内会

北代三区住民納涼大会（平成 27 年 8 月 8 日）

(5) 来場者数

年度	個人	団体	合計	土器づくり体験	縄文グッズづくり体験	縄文コースタ一づくり体験
25	6,600人	1,249人	7,849人	330人	370人	—
26	9,959人	1,630人	11,589人	395人	197人	—
27(28年2月末現在)	8,556人	1,261人	9,817人	432人	144人	111人

(参考) 平成11年4月～27年2月末の累計来場者数 155,466人

2 安田城跡歴史の広場

(1) 管理

①管理

管理人1名が常駐し、資料館及び広場の管理や来場者への案内・解説を行いました。
清掃業務及び広場の環境整備(芝刈・樹木剪定・除草)は、公益社団法人富山市シルバーハウスセンター及び財団法人富山市婦中公園緑地管理公社に委託しました。
この他、資料館南側の老朽化した生垣の修繕や、高木化・枯死したシラカシ・ナナカマド・サンゴジュの伐採・処分を行いました。

②社会に学ぶ 14歳の挑戦

広場管理運営補助 岩羽・芝園・西部中学校(3名) 平成27年7月10日

③視察

文化庁文化財部記念物課整備部門 五島昌也文化財調査官 平成27年7月2日

④その他

「第10回越中富山ふるさとチャレンジスタンプラリー」(越中富山ふるさとチャレンジ実行委員会事務局)のスタンプラリーに協力しました。

平成27年5月1日～10月16日

(2) 展示

①ミニ企画展

テーマ	期間	主要展示品	入場者数(人)
1 中世の暮らしと木の道具	平成27年1月20日～7月9日	小出城跡漆器・下駄・曲物・なぎなたの柄、水桶金広・中馬場遺跡木摺臼・双六盤・漆器・田下駄・タモ網・ヤヌほか	10,328
2 城・集落からみつかった文字	平成28年2月19日～3月31日	米田大覚遺跡墨書き土器・任海宮田遺跡墨書き土器・豊田大塚・中吉原遺跡人面墨書き土器・人形・絶曲輪遺跡墨書き土器・太田本郷城跡墨書きわらけ・願海寺城跡木簡・符根刷・水桶金広・中馬場遺跡呪符木簡・塚根経塚経石ほか	234 (2月末現在)

(3) 自主事業

①夏休み子ども歴史講座①「秀吉と成政の戦いを見つめた城 安田城～学んだ歴史をレポートしよう～」

平成27年7月31日 50名参加

②夏休み子ども歴史講座②「富山城櫓御門のペーパークラフトをつくろう」

平成27年8月12日 25名参加

③歴史講座①「城郭遺構から読み解く佐々成政征伐について」 佐伯哲也氏

平成27年10月21日 32名参加



歴史講座①(講師: 佐伯哲也氏)

④歴史講座②「文字資料にみる富山の歴史について」木本秀樹嘱託

平成28年3月10日 25名参加

(4)地元行事

第23回安田城月見の宴

(安田城月見の宴実行委員会主催)

平成27年8月22日 1,500名参加

(5)来場者数

年度	個人	団体	合計
25	15,113	1,306	16,419
26	14,633	2,138	16,771
27(28年2月末現在)	14,969	2,263	17,232



(参考)

平成5~28年2月末の

累計来場者数

192,808人

3 史跡王塚・千坊山遺跡群

(1)公有化事業

弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡と墳墓の計7ヶ所で構成される史跡王塚・千坊山遺跡群では、平成23年度から5ヶ年計画で公有化事業を実施しました。

最終年度となる平成27年度は、4遺跡で6,339.71m²(38筆13人)の史跡指定地を公有化しました。5年間で取得した史跡の総面積は、平成24年度寄附地62m²(1筆1人)を合わせると、当初の事業対象面積59,691.27m²の92.33%にあたる55,114.99m²(230筆86人)となります。そのほか史跡保護の為、富崎塚墓群の北側に隣接する崖地3,645.34m²(史跡指定地外)の公有化も行いました。

事業前からの市有地4,650.41m²(千坊山遺跡・向野塚墳墓)をあわせた市有地の総面積は、63,410.74m²になります。

(2)維持・管理

- 千坊山遺跡・六治古塚墳墓・勅使塚古墳(公有地部分 約48,000m²) 公益社団法人富山市シルバー人材センター委託による草刈
- 千坊山遺跡内古里小学校旧運動場(約6,300m²) 古里小学校P.T.A.による草刈

【平成27年度の成果】

遺跡名	公有化面積(m ²)	筆数	地権者数(人)
千坊山遺跡	3,847.00	15	
六治古塚墳墓	229.44	1	
向野塚墳墓	1,646.61	21	
富崎塚墓群	616.66	1	13
史跡指定地 計	6,339.71	38	
富崎塚墓群隣接地	3,645.34	2	
史跡指定地外 計	3,645.34	2	
合 計	9,985.05	40	13

【土地の所有状況の内訳】

土地所有者	面積(m ²)	構成比	は公有化事業に関わる土地 備考
史跡指定地	110,852.54	100.00%	指定時 110,878.72m ² (分譲時 26,18m ² 減)
国有地	103.29	0.09%	黒道・水路
県有地	43,337.72	39.09%	県立ふるさと博物館学校、県南産研究所
市有地(A)	59,765.40	53.91%	
従来からの市有地	4,650.41	4.20%	旧運動場、黒道・水路
公有化事業の契約成立地	55,052.99	49.66%	当事業での公有化面積 55,114.99m ²
寄附地	62.00	0.06%	
寺社地	2,567.64	2.32%	各靈廟、本宮寺
その他の中井地	5,078.49	4.58%	
公有化事業 対象外	502.21	0.45%	墓地、用済水路、駐車場
公有化事業の契約不成立地	4,576.28	4.13%	
史跡指定地外	3,645.34		
市有地(B)	3,645.34		
公有化事業の契約成立地	3,645.34		富崎塚墓群隣接地

市有地合計面積 (A)+(B) 63,410.74 m²

4 県・市指定史跡等管理等

(1) 国・県指定

①文化財バトロール

富山県が委嘱した文化財保護指導委員(富山市域5人)による定期的な国・県指定文化財、埋蔵文化財等の状況調査

区別	名 称	保護の意見等
史跡	北代遺跡、直坂遺跡、安田城跡、王塚・千坊山遺跡群	なし
埋蔵文化財包蔵地	百塚城跡、小出城跡、宮塚古墳、若王子塚古墳、清水堂古墳、五ツ塚古墳、長岡八町遺跡、長岡杉林遺跡、野田遺跡、宮町遺跡、高来遺跡、直坂II遺跡、八木山大野遺跡、猿倉城跡、春日遺跡	なし

(2) 市指定等

①除草

堀I遺跡(5・8・10月)、友坂二重不整合(6・8月)、押上遺跡、栗山塚(5月)、古沢塚山古墳・境野新遺跡(6月)

V 展示・普及

1 発掘速報展

(1) 発掘速報展 2014 part 1 「発掘!富山城下町」

安田城跡資料館 平成27年7月16日～11月8日 入館者数 5,933人

展示遺跡 富山城下町遺跡

主要展示品 越中瀬戸・瀬戸美濃、伊万里、唐津、土人形、煙管、櫛、羽子板、下駄、井戸桶、石製井戸側、魚骨、鳥骨、貝類など

(2) 発掘速報展 2014 part 2 「発掘!富山市の古代」

安田城跡資料館 平成27年11月11日～平成28年2月11日 入館者数 1,391人

展示遺跡 千石町遺跡、二本榎遺跡、八ヶ山A遺跡

主要展示品 弥生土器、須恵器、土師器、ガラス小玉、土製丸玉、刀子、土錘、など

2 兼務関係施設企画展等

(1) 考古資料館(民俗民芸村所管：小黒主査学芸員兼務)

テーマ等	期間	主要展示品・関連行事等	来館者等
ミニ企画展 「奥羽丘陵の古墳」	平成27年5月23日～11月8日(170日間)	百塚住吉遺跡土師器、百塚遺跡須恵器・馬具、番神山横穴墓群須恵器・鉄刀など	3,551人
	平成27年5月31日	奥羽丘陵の古墳に学ぶI 特別講演会・現地見学・出土品解説会	35人
	平成27年6月27日	奥羽丘陵の古墳に親しむ 古沢塚山古墳現地見学	16人
	平成27年8月8日	奥羽丘陵の古墳に学ぶII 特別講演会・出土品解説会	29人
ミニ企画展 「展示品のここのに注目②文字」	平成27年11月11日～平成28年4月17日(151日間)	柳谷南遺跡出土刻書土器・円面鏡、任海宮田遺跡出土墨書き土器、豊田大塚・中吉原遺跡出土人形など	2,518人 (平成28年2月末現在)

舟橋村公民館自然体験活動「奥羽山丘陵古墳群を歩いてみよう！」

古沢塚山古墳現地見学 18人参加 平成27年6月27日

3 遺跡発掘調査現地説明会等

(1) 富山城跡

平成 27 年 9 月 12 日(土)

旧総曲輪小学校内発掘調査現場

参加者数 200 名

総曲輪 4 丁目地内で、富山城三ノ丸以前にあった室町時代の区画構、戦国時代の居館跡、中世富山城に関わる堀跡などの遺構を公開しました。

(2) 富山城石垣石材解説会

平成 27 年 11 月 7 日(土)

旧総曲輪小学校内発掘調査現場

参加者数 60 名

富山城三ノ丸外堀跡の発掘調査で出土した石垣石材と石造物（灯籠、手水鉢等）についての解説を行った。石垣石材は明治 16 年に取り壊された二ノ丸二階櫓御門石垣のものと推定される。二階櫓御門石垣の石材がまとまって見つかったのは初めてです。



富山城跡現地説明会のようす

4 講座

(1) 富山市民大学（市民学習センター主催）

① 富山城・城下町の調査研究・最前線

回	講師	学習題	開催月日
1	古川知明所長	富山城・城下町遺跡 調査・研究のこれまでとこれから	5 月 22 日
4	鹿島昌也主査学芸員	富山城二ノ丸・三ノ丸・城下町主要部の発掘成果	6 月 26 日
5	堀内大介主査学芸員	【現地学習】総曲輪 4 丁目地内発掘現場	7 月 17 日
6	野垣好史主査学芸員	富山城本丸・西ノ丸の発掘成果	9 月 4 日
7	古川知明所長	【現地学習】富山城本丸石垣	10 月 2 日
8	近藤顕子専門学芸員	城下町遺跡の発掘成果	10 月 23 日
10	古川知明所長	富山と高岡 城と城下町を比較する	11 月 13 日

② 歴史史料に親しむ

1	木本秀樹嘱託	歴史史料概説	5 月 9 日
2	木本秀樹嘱託	古代史料をよむ－制度史料－	6 月 6 日
3	木本秀樹嘱託	古代史料をよむ－編纂史料と古文書等－	6 月 26 日
4	木本秀樹嘱託	古代史料をよむ－奈良期の食生活－	7 月 18 日

③ 富山市民大学プラネット（婦中ふれあい館ほか） 婦負の歴史・環境巡り

4	大野英子主査学芸員	【現地学習】婦中地域の史跡めぐり（王塚・千坊山遺跡群と堀内遺跡）	6 月 17 日
6	木本秀樹嘱託	【現地学習】安田城と婦負（会場：安田城跡資料館）	8 月 26 日

④ 富山市民大学プラネット（大沢生涯学習センター） 地土史

10	木本秀樹嘱託	山・海・川をめぐる越中古代史の諸相	10 月 22 日
----	--------	-------------------	-----------

(2) 市役所出前講座

遺跡からみた富山の歴史

回	講師	演題	主催者・会場	参加者数	月日
1	鹿島昌也主査学芸員	水橋荒町・辻ヶ堂遺跡にみる日本海文化/富山市内遺跡の最新発掘成果	水橋西部ふるさとづくり推進協議会／水橋西部小学校	30	6 月 24 日
2	堀内大介主査学芸員	新庄城跡・富山城跡・富山城下町遺跡～最新の発掘調査成果から～	新屋町内会／新屋公民館	25	6 月 28 日

3	中本八徳主査学芸員	遺跡からみた富山の歴史	芝園町1丁目つくし会（長寿会）／芝園町1丁目自治公民館	20	9月 29日
4	中本八徳主査学芸員	遺跡からみた富山の歴史	婦中町道島・上野地区／道島牛嶽神社	25	10月 17日
5	小林高範主査学芸員	岩手県山田町への震災復興支援	こしのみちのなか／割烹まる十	13	10月 29日
6	鹿島昌也主査学芸員	遺跡からみた上条の歴史	上条公民館連絡協議会／上条公民館	40	11月 13日
7	小林高範主査学芸員	遺跡からみた富山の歴史－浜黒崎周辺の遺跡－	浜黒崎中央公民館／浜黒崎中央公民館	21	11月 23日
8	大野英子主査学芸員	婦負地域の古墳について	婦中町観光ボランティアの会／速星公民館	14	11月 26日
9	鹿島昌也主査学芸員	遺跡からみた富山の歴史－ペールに覆われていた江戸富山藩邸－	伊波世野俱楽部／懶料理「松月」	40	12月 17日
10	小黒智久主査学芸員	里山講演会－呉羽丘陵の古墳－	NPO法人きんたろう俱楽部／「くれは山莊保養館能州庵	20	2月 3日
11	鹿島昌也主査学芸員	遺跡からみた富山の歴史－まちなかに弥生時代の遺跡が！－	西田地方校下ふるさとづくり推進協議会／西田地方公民館	45	2月 4日
12	小松博幸主査学芸員	遺跡から見た福沢の歴史	福沢地区自治振興会／福沢地区コミュニティセンター	40	3月 6日

(3) その他講座

- ①富山県【立山博物館】教養講座 第5回「芦ヶ寺の石造物を訪ねて」古川知明所長 平成27年10月25日 立山町芦ヶ寺地内 30人
 ②富山市教育委員会部内研修H27年度第2回「埋蔵文化財センターの業務について」古川知明所長 平成28年2月26日 富山市役所

5 その他

(1)社会に学ぶ 14歳の挑戦

芝園・西部・呉羽中学校（各校1名） 平成27年7月6日～7月10日

【業務】図書整理・出土品整理・北代縄文広場管理・安田城跡歴史の広場管理

(2)マスコミ

- ①富山シティエフエム「ものしり富山学」「富山市考古資料館・ミニ企画展‘呉羽丘陵の古墳’」平成27年7月27日～7月31日 小黒智久主査学芸員
- ②富山シティエフエム「ものしり富山学」「富山市婦中安田城跡歴史の広場・発掘速報展‘発掘！富山城下町’」平成27年10月26日～10月30日 木本秀樹嘱託
- ③富山シティエフエム「ものしり富山学」「富山市北代縄文広場・ミニ企画展‘栗山コレクションにみる北代遺跡’」平成28年2月8日～2月12日 小黒智久主査学芸員

VI 刊行物

1 発掘調査報告書

- No. 78 富山市千石町遺跡発掘調査報告書(2015, 9)、No. 78-2 写真図版編(2016, 3)
- No. 79 富山城跡・富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書(2015, 12)
- No. 80 富山市内遺跡発掘調査概要XVI(2016, 3)
- No. 81 富山城跡発掘調査報告書(2016, 3)
- No. 82 富山市内遺跡発掘調査概要XVII(2016, 3)
- No. 83 富山市内石造物調査報告書V(2016, 3)

- No. 84 富山藩主前田家墓所長岡御廟所石造物調査報告書(2016, 3)
 No. 85 富山市塩下野II遺跡発掘調査報告書(2016, 3)

2 PR誌・展示図録等

- 富山市の遺跡物語 No. 17 富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報 (2016, 3)
 北代縄文通信 第41号 (2015, 9)、第42号 (2016, 3)

VII 活用

1 出土品貸出

	貸出先	展示名	展示期間	資料名
1	富山県埋蔵文化財センター	ふれる標本箱タッチ・ザ・DOKI	27.4.1 ~28.3.31	岩瀬天神遺跡ほか市内遺跡出土土器片 30点
2	富山市郷土博物館	常設展「各地の中世城館出土品」	27.5.16 ~27.9.27	小出城跡下駄、柄杓、著状木製品ほか9点
3	富山市郷土博物館	常設展 コーナー展示「リアルタイム富山城」	27.5.16 ~27.9.28	富山城下町遺跡出土土人形19点
4	高志の国文学館	企画展「あの日、青い空から一久世光彦の人間主義」展	27.7.11 ~27.9.7	富山城跡・富山城下町遺跡主要部出土木簡3点
5	長岡市馬高縄文館	特別展「北陸の土器と火炎土器II -富山・石川の様相をさぐる」展	27.9.26 ~27.11.8	鏡坂I遺跡出土縄文土器、土製品ほか11点
6	大阪府立弥生文化博物館	特別展「海をみつめた縄文人 -放生津潟とヒスイ海岸-」展	27.10.10 ~27.12.6	北代遺跡出土縄文土器・土製品・石器30点
7	富山市郷土博物館	常設展「各地の中世城館出土品」	27.12.5 ~28.9.25	新庄城跡出土かわらけ等

2 写真等資料掲載

- (1) 長岡八町遺跡出土土偶写真 世界文化社『にっぽん全国 土偶手帖』(平成27年7月30日刊行)
 (2) 鏡坂I遺跡出土縄文土器写真 長岡市馬高縄文館秋季特別展「北陸の土器と火炎土器」チラシ(平成27年4月3日)
 (3) 北代遺跡発掘写真、北代遺跡出土土器・石器・骨等写真 大阪府立弥生文化博物館平成27年度秋季特別展解説図録『海をみつめた縄文人 -放生津潟とヒスイ海岸-』、同展ポスター・チラシ(平成27年10月10日)

3 資料調査・見学等

- (1) 平成27年3月19日 新潟県教育庁渡邊裕之専門調査員 吉岡遺跡出土縄文土器調査
 (2) 平成27年4月17日 古志の国文学館 小林加代子主任学芸員 企画展「あの日、青い空から一久世光彦の人間主義」関連富山城下町遺跡主要部出土木札等調査
 (3) 平成27年5月18・19日、6月2・9・30日、7月23・27日、8月13日、9月15日、12月21・22日 富山市陶芸館 高木好美学芸員 富山城下町遺跡出土近世陶磁器等調査
 (4) 平成27年6月4日 福島大学行政政策学類菊地芳朗教授 史跡王塚・千坊山遺跡群等調査
 (5) 平成27年6月9日 台湾中央研究院 飯塚義之・内田純子 富山市二本榎遺跡出土遺物調査
 (6) 平成27年6月17日 長岡市立科学博物館小熊博史館長 開ヶ丘孤谷III遺跡・鏡坂I遺跡出土遺物調査
 (7) 平成27年6月19日 沖縄県立博物館・美術館 山崎真治主任(人類学) 小竹貝塚出土骨角器調査
 (8) 平成27年6月27日 陶磁器を見る会(代表 金沢大学佐々木達夫名誉教授) 14名 富山城・富山城下町遺跡出土陶磁器調査
 (9) 平成27年9月9日、10月20日 金沢学院大学学生松井萌子 北代遺跡等縄文時代のヒスイ製品、文献等調査
 (10) 平成27年12月9日 富山大学学生奥勇介 経力遺跡弥生土器調査

- (11) 平成 28 年 2 月 13 日 陶磁器を見る会（代表 金沢大学佐々木達夫名誉教授）14 名 富山城三の丸出土
陶磁器調査

VIII 調査研究

1 調査

- (1) 宝林山福王寺宝篋印塔・住職墓調査 平成 26 年 11 月～27 年 7 月（古川）
(2) 布尻神社境内石造物調査 平成 27 年 7 月～28 年 3 月（古川）
(3) 豊谷山宝樹寺境内石造物調査 平成 27 年 7 月～11 月（古川）
(4) 富山藩主前田家墓所長岡御廟所内石造物帶磁率調査 平成 27 年 8 月～12 月（古川）
(5) 富山藩主前田家墓所長岡御廟所宝室墓石造物調査 平成 27 年 11 月～28 年 3 月（古川）

2 調査協力・共同研究

- (1) 国立研究開発法人産業技術総合研究所地図資源環境研究部門 長秋雄主任研究員
富山城石垣石材等の岩石帶磁率調査
①8 月 7・8 日 富山城石垣帶磁率調査
②10 月 20・21 日 富山城石垣、早月川・片貝川石材帶磁率調査
③11 月 16 日～20 日 常願寺川上流部等各河川における安山岩の帶磁率調査
(2) 石川県金沢城調査研究所 金沢城関連城郭等情報連絡会
27 年度テーマ「金沢城関連城郭等の絵図・文献の調査・研究について」
①7 月 21 日 第 1 回報告会 各機関の絵図・文献の調査研究について
「富山城・城下町の絵図・文献の調査・研究について」（古川）
②28 年 1 月 28 日 講習会「小松城・高岡城・富山城の絵図と文献」「富山城の絵図と文献」（古川）
③石川県金沢城調査研究所編 2016.3 『金沢城関連城郭等の絵図と文献』発行
(3) 台湾中央研究院飯塚義之主管
富山城土壘内出土ネフライトの低真空走査型電子顕微鏡 (LV-SEM) 分析による产地同定
(6 月 9 日)
(4) (公財) 石川県埋蔵文化財センター 石川県小松市漆町遺跡発掘調査（中世後期鉄造遺構）現地指導 小黒主査学芸員（6 月 11 日）
(5) 金沢学院大学文学部歴史学専攻中村晋也研究室・台湾中央研究院飯塚義之主管・輪島市教育委員会 富山市二本榎遺跡古墳と輪島市稻舟横穴古墳群出土黄色ガラス小玉の比較検討
現地調査 鹿島主査学芸員（8 月 7 日）

3 論文・報告・紹介

富山市内の遺跡に関するものを含みます。

(1) 関係職員等

- 小黒智久 2015.4 「ポスターセッション要旨 気候変動に苛まれた人びと－弥生終末期・北陸北東部系土器の広域分布の主要因－」『学際的アプローチと考古学研究』考古学研究会第 61 回総会・研究集会資料集 考古学研究会
小黒智久 2015.5 『與羽丘陵の古墳』 富山市考古資料館
小黒智久 2015.9 「史跡古津八幡山遺跡難感」『新潟県考古学会連絡紙』第 105 号 新潟県考古学会
小黒智久 2015.9 「考古学研究会との出会い」『考古学研究』第 62 卷第 2 号 考古学研究会
小黒智久 2015.12 「越中・十二町潟の古墳とその周辺」『研究集会「海の古墳を考える V」(福井)』日本海の潟湖と古墳の動態－北陸からの視点－ 予稿集』 研究集会「海の古墳を考える V」実行委員会
小黒智久・高木好美 2016.3 「寄贈資料紹介－番神山横穴墓群採集須恵器－」『富山市考古資料館紀要』 第 35 号 富山市考古資料館
鹿島昌也 2015.4 「水橋西部地区周辺の遺跡とお城(7)古代の役所か一水橋荒町・辻ヶ堂遺跡⑥」『広報あませ』第 168 号 水橋西部ふるさとづくり推進協議会

- 鹿島昌也 2015.5 「水橋西部地区周辺の遺跡とお城(8)幻の城をめぐって一鷲野城①」『広報あませ』第169号 水橋西部ふるさとづくり推進協議会
- 鹿島昌也 2015.5 「富山城下町遺跡出土「病院」銘入り徳利形陶器瓶の意義について」『日本考古学協会第81回総会 研究発表要旨』日本考古学協会
- 鹿島昌也 2015.6 「水橋西部地区周辺の遺跡とお城(9)幻の城をめぐって一鷲野城②」『広報あませ』第170号 水橋西部ふるさとづくり推進協議会
- 鹿島昌也 2015.7 「水橋西部地区周辺の遺跡とお城(10)幻の城をめぐって一小出城①」『広報あませ』第171号 水橋西部ふるさとづくり推進協議会
- 鹿島昌也 2015.8 「水橋西部地区周辺の遺跡とお城(11)幻の城をめぐって一小出城②」『広報あませ』第172号 水橋西部ふるさとづくり推進協議会
- 鹿島昌也 2015.9 「水橋西部地区周辺の遺跡とお城(12)幻の城をめぐって一小出城③」『広報あませ』第173号 水橋西部ふるさとづくり推進協議会
- 鹿島昌也 2015.10 「水橋西部地区周辺の遺跡とお城(13)幻の城をめぐって一辻ヶ堂城①」『広報あませ』第174号 水橋西部ふるさとづくり推進協議会
- 鹿島昌也 2015.11 「研究発表要旨 富山藩江戸後期の殖産興業—富山土人形と越中丸山焼」『富山史壇』第178号 越中史壇会
- 鹿島昌也 2015.11 「水橋西部地区周辺の遺跡とお城(14)幻の城をめぐって一辻ヶ堂城②」『広報あませ』第175号 水橋西部ふるさとづくり推進協議会
- 鹿島昌也 2015.12 「水橋西部地区周辺の遺跡とお城(15)幻の城をめぐって一辻ヶ堂城③」『広報あませ』第176号 水橋西部ふるさとづくり推進協議会
- 鹿島昌也 2016.1 「水橋西部地区周辺の遺跡とお城(16)幻の城をめぐって一平榎城①」『広報あませ』第177号 水橋西部ふるさとづくり推進協議会
- 鹿島昌也 2016.2 「水橋西部地区周辺の遺跡とお城(17)幻の城をめぐって一平榎城②」『広報あませ』第178号 水橋西部ふるさとづくり推進協議会
- 鹿島昌也 2016.3 「水橋西部地区周辺の遺跡とお城(18)幻の城をめぐって一平榎城③」『広報あませ』第179号 水橋西部ふるさとづくり推進協議会
- 鹿島昌也 2016.3 「富山県内の近代「病院」銘入り陶器瓶について」『富山市の遺跡物語』第17号 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
- 木本秀樹 2015.8 「五百井女王と越中国」『綺羅』36号 綺羅短歌の会
- 木本秀樹 2015.11 「白鳥と鷹—その歴史的背景」『綺羅』37号 綺羅短歌の会
- 近藤顯子 2016.3 「富山城下町の井戸について」『富山市の遺跡物語』第17号 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
- 近藤顯子・野垣好史 2016.3 「富山城下町遺跡主要部の発掘調査」『考古学ジャーナル』No.681 ニューサイエンス社
- 小林高範 2016.3 「富山市南部の神社における参道狛犬について(1)」『大山の歴史と民俗』第19号 大山歴史民俗研究会
- 酒井英男・泉吉紀・木村克之・伊藤孝・鹿島昌也・加藤由美子 2015.12 「地震による遺構の変形の磁化研究からの検証」『情報考古学』Vol.21 日本情報考古学会
- 高木好美・鹿島昌也 2016.3 「富山城下町遺跡出土の流し掛け碗について」『富山市考古資料館紀要』第35号 富山市考古資料館
- 高橋浩二 2016.3 「奥羽丘陵の前方後円墳とその意義」『富山市考古資料館紀要』第35号 富山市考古資料館
- 野垣好史 2015.8 「近世富山城下町の発掘調査—背削水路を中心に—」『北陸都市史学会誌』No.21 北陸都市史学会
- 藤田富士夫 2015.6 「古墳時代中期の玉作遺跡とランドマーク—ナカワ祭祀圏での事例」『敬和学園大学人文社会科学研究年報』第13号
- 藤田富士夫 2015.7 「飛鳥の神奈備山再論」『野外調査研究所報告』23号 NPO法人野外調査研究所

- 藤田富士夫 2016.1 『『考古学ジャーナル』の 50 年に寄せて』『月刊考古学ジャーナル』No.679 ニューサイエンス社
- 藤田富士夫 2016.1 『飛鳥の神奈備山と二つの寺』『坂詰秀一先生傘寿記念論文集 考古学の諸相IV』坂詰秀一先生傘寿記念会
- 古川知明 2015.3 『港町を廻る 越中岩瀬』『中世日本海の流通と湊町』清文社
- 古川知明 2015.4 『考古ウォーキング 加賀藩主前田利長の足跡』『考古学ジャーナル』668 ニューサイエンス社
- 古川知明 2015.6 『富山県地方史研究の動向 考古学』『信濃』第 67 卷第 6 号 信濃史学会
- 古川知明 2016.3 『富山城の絵図と文献』『金沢城関連城郭等の絵図と文献』石川県金沢城調査研究所
- 古川知明 2016.3 『上瀧磨崖仏について』『富山市の遺跡物語』第 17 号 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
- 細辻嘉門・三上智丈 2016.3 『富山市婦中町田島地内で見つかった石棒について』『富山市の遺跡物語』第 17 号 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
- 堀内大介・高橋 敦・千葉博俊 2016.3 『西町地内埋没樹木について』『富山市の遺跡物語』第 17 号 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
- (2)市内遺跡を取り扱ったもの
- まちなみカントリープレス 2015.5 『KURA』2015年6月号「信越・北陸観光圏」
- 石川県金沢城調査研究所編 2016.3 『金沢城関連城郭等の絵図と文献』

4 講演・研究発表

富山市内の遺跡に関するものを含みます。

- 小黒智久 「気候変動に苛まれた人びと－弥生終末期・北陸北東部系土器の広域分布の主要因－」考古学研究会 第 61 回研究集会ポスターセッション 平成 27 年 4 月 18~19 日 岡山大学創立五十周年記念館
- 小黒智久 「越中 十二町潟の古墳とその周辺」研究集会 海の古墳を考えるV『日本海の潟湖と古墳の動態－北陸からの視点－』 平成 27 年 12 月 5 日 福井市立郷土歴史博物館
- 鹿島昌也 「富山城下町遺跡出土「病院」銘入り徳利形陶器瓶の意義について」日本考古学協会第 81 回総会 研究発表 平成 27 年 5 月 24 日 帝京大学
- 鹿島昌也 「出土病院銘入り徳利形陶器瓶について」 越中小杉焼友の会 7 月例会 平成 27 年 7 月 26 日 射水市中央図書館
- 鹿島昌也 「富山藩江戸後期の殖産興業－富山土人形と越中丸山焼」越中史壇会研究発表大会 平成 27 年 8 月 23 日
- 酒井英男・泉吉紀・木村克之・伊藤孝・鹿島昌也 「遺跡に残る古地震の影響の研究」日本情報考古学会 第 34 回大会 平成 27 年 3 月 28 日 大阪大学
- 木本秀樹 「古代新川郡をめぐる諸相」富山県民生涯学習カレッジ 平成 27 年 9 月 26 日新川地区センター
- 木本秀樹 「8・9 世紀越中国司の任官と諸様相」富山県公文書館歴史講座 平成 27 年 7 月 2 日 富山県公文書館
- 木本秀樹 「古代北陸道の国制と諸相」高岡市万葉歴史館『古代への招待』 平成 27 年 12 月 20 日 高岡市万葉歴史館
- 高橋浩二 「呉羽丘陵の古墳とその意義」富山市考古資料館ミニ企画展「呉羽丘陵の古墳」開連行事 呉羽丘陵の古墳を学ぶI 特別講演会 平成 27 年 5 月 31 日 富山市民俗民芸村管理センター
- 納屋内高史 「富山城下町から出土した動物遺存体－西町南地区出土資料を中心に－」加賀藩食文化史研究会『近世金沢の食文化－遺跡に眠る動物たち－』 平成 27 年 12 月 5 日 金沢市文化ホール大集会室
- 原 佳佑 「富山県出土古代ガラスの自然科学的研究－小杉流通業務団地 No.7 遺跡・小杉流通業務団地 No.11 遺跡・二本榎遺跡を中心に」金沢学院大学卒業論文発表会 平成 28 年 2 月 14 日 石川県立美術館
- 藤田富士夫 「呉羽丘陵の古墳調査のころー人・モノ・コトを振り返るー」富山市考古資料館ミニ企画展「呉羽丘陵の古墳」開連行事 呉羽丘陵の古墳を学ぶII 特別講演会 平成 27 年 8 月 8 日 富山市民俗民芸村管理センター
- 藤田富士夫 「北陸圏のヒスイ玉の生産と流通」第 1 回翡翠フォーラム in 朝日町『ヒスイと縄文人』平成

27年9月5日

- 古川知明 「富山城の絵図と文献」平成27年度金沢城大学『小松城・高岡城・富山城の絵図と文献』平成28年1月28日 石川県立美術館
細辻嘉門 「近世富山城・城下町遺跡の最新の発掘成果」第38回 2015年度 北陸都市史学会 金沢大会 平成27年8月2日 金沢市石川県政記念しいのき迎賓館
堀内大介 「富山城跡発掘調査報告～旧続曲輪小学校跡地の発掘から～」平成28年度富山考古学会総会 平成28年2月14日 環日本海交流会館
長秋雄 「富山城石垣・高岡城石垣・金沢城石垣の帶磁率」日本地質学会第122年学術大会（長野大会）
アウトリーチセッション 平成27年9月12日 信州大学

IX 研修等参加・資料提供

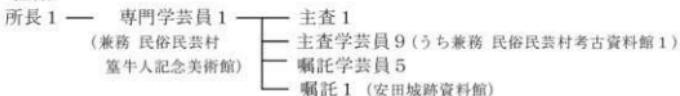
- 1 平成27年度文化財担当者専門研修「災害痕跡調査過程」 鹿島主査学芸員 独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所 平成27年6月16日～6月19日
- 2 平成27年度全史協北信越地区協議会研修会 小松主査学芸員 上越市 平成27年7月16日
- 3 平成27年度第1回埋蔵文化財担当職員等講習会 近藤専門学芸員・中本主査学芸員・小林主査学芸員 富山県民会館 平成27年8月26日～8月27日
- 4 第50回全国史跡整備市町村協議会大会 古川所長・中本主査学芸員・大野主査学芸員 高岡市 平成27年10月7日
- 5 平成27年埋蔵文化財発掘調査専門職員等研修会 鹿島主査学芸員・堀内主査学芸員・三上嘱託学芸員・納屋内嘱託学芸員・宮田嘱託学芸員 富山県埋蔵文化財センター 平成28年2月23日
- 6 第22回全国山城サミット米原大会 加盟自治体の山城紹介（白鳥城跡）
- 7 第13回全国城跡等石垣整備調査研究会 事例紹介（富山城跡）

X 寄贈

- 1 電動薪割機（北代縄文広場）1台 富山西ライオンズクラブ（会長 田畠裕二）

XI 組織・事業費

1 組織



2 事業費（平成27年度当初）

総経費	182,928千円
埋蔵文化財調査事業費	31,184千円
(内訳) 埋蔵文化財調査費	15,508千円
普及事業費	154千円
施設管理事務費	15,522千円
②文化財保護事業費	56,919千円
(内訳) 文化財保護事業費	12,919千円
施設老朽化対策費	6,100千円
史跡公有化事業費	37,900千円
③一般管理事務費	94,825千円

研究報告 1 富山市婦中町田島地内で見つかった石棒について

細辻嘉門・三上智丈
(富山市埋蔵文化財センター主査学芸員・嘱託学芸員)

1 現地の概要と収蔵までの経緯

婦中町田島地区は、富山市中心部から南西に4.5kmの神通川左岸の緩扇状地・氾濫平野に立地する。近年住宅団地として開発が進んだ地域である。地区の北東から南西に旧国道359号が通り、南東から北西にかけて北陸自動車道が通る。東北東0.9kmには延喜式内社の鶴坂神社がある。

平成27年5月、市民から「婦中町田島の住宅街の路地に石棒が落ちている」との情報が寄せられたため、5月19日現地に行き、石棒であることを確認した。その後、鶴坂地区センターや婦中総合行政センターにおいて、現地が市有地で、石棒が個人の所有物でないことを確認し、平成27年5月28日、石棒を現地から拾集して、管轄する富山西警察署で拾得物としての手続きを行った。

平成28年2月現在、現地は周知の埋蔵文化財包蔵地には該当しない。周辺の田畠を歩いてみたが他に遺物は見られない。近隣にも縄文時代の遺跡は所在しない。このことから、石棒はどこか他の場所で拾われ、現地に移動した可能性が高い。
(細辻)



現地周辺図 (S=1/15000)



石棒確認時の状況(西から)
(中央部白円が石棒)

2 遺物の概要

縄文時代の石棒 1点である。完形品で全

長・全幅・厚さ・重量・石質・色調は以下の表の通りである。

全長	全幅 (最大幅)	厚さ	重量	石質	色調
81.9 cm	16.0 cm	17.5 cm	37.0kg	凝灰岩 (産地不明)	7.5Y 6/2 灰オリーブ(注1)

上端部表側は台形形状の加工が施され、側面からみるとつぶれた三角形となる。裏側は八の字のように広がり、その下には「くびれ」が見受けられる。また、下端部にもわずかではあるが、同様の「くびれ」が見受けられる。下端部は平面に加工している。さらに側面側の上端部と胴体部の間にこぶし大（長さ9cm・深さ2mm程度）の敲打によると思われる「くぼみ」を1箇所確認した。色調は主に灰オリーブであるが、全体に赤っぽく(7.5YR 4/4褐色)変色し、一部には黒っぽく(10YR 4/1褐色)の変色した箇所もある。

表面は敲打痕の見分けがつかないほど研磨整形している。しかし、光の当て具合や手の触感により、わずかではあるが全体に敲打痕が残るのがわかり、風化の影響は少ないと考えら

れる。石材を大まかに成形した後、細かく敲打することで形を整えて、さらに磨くなどの調整をしたと考えられる。ただし、上端部に行くほど、研磨整形を入念にしているためか敲打痕は比較的少なくなっている。下端部も、石材の自然面が残らず、丁寧に調整・平面加工していると考えられ、特徴的である。試しに平面上に置いたところ、特に支えも不要で簡単に屹立した。なお、端部を平面的に加工・調整する石棒は、東北地方北部の端部彫刻石棒で類例が見られる(阿部 2015)。背面下端部の一部には引っ搔いたような傷があり、後世の傷であると考えられる。

3 若干の考察

富山市内における大型石棒は、確認できている完形品としては八尾町の妙川寺遺跡で採集された彫刻石棒【全長 94cm】(富山市教育委員会 2007)に次ぐ大きさである。

また、形状的特徴から、本石棒は頭部(先端部)形態における分類判別として、

(1)小島分類(小島 1976)では、亀頭部に段をつくり、先端部を張り出させるVI型。

(2)大矢分類(大矢 1977)では、単頭石棒I型:頭部形状b類(上端部)およびc類(下端部)。

(3)長田分類(長田 2012・2013)では、最大径10cm以上、断面円形・刃部無し、頭部が先細る形状となるIV類・三角型(上端部)およびII類・鏽型(下端部)に該当する。

長田氏は、頭部形態による細別設定は石棒の素材選択時に形状はほぼ決定しているため限界があり、むしろ素材選択と製作技術の検討こそ、細別における重要な分類属性になりうると述べており、大型石棒における三類別(長田 2012)によれば、縄文中期後半に柱状節理の自然礫を用いた一群に分類される。よって、この石棒の時期は、縄文時代中期後半から後期初頭と推定される。長田友也氏からは、「石棒は、用途として、土中に埋めて屹立して祭られるため、一般には下端部を平坦に加工・調整はすることは少ない。しかしこの資料は下端部を平坦に加工しているので、縄文時代のものかどうかは一考を要するであろう。」とのコメントをいただいた。記して感謝いたします。

大型石棒は、出土事例そのものが少ないため、今後、この石棒の出土地の解明を行っていただきたい。
(三上)

(注1)色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖 1995年版』に掲る。

引用・参考文献

- 阿部昭典 2015「大形石棒の出土状況 東北系の端部彫刻石棒の事例」『月刊考古学ジャーナル №678』ニューサイエンス社 pp. 13-17
- 五十嵐俊雄 2006『考古資料の岩石学』 パリノ・サーヴェイ株式会社
- 泉拓良・西田泰民ほか編 1999『imidas Special Iusse 縄文世界の一万年』 集英社
- 大田区立郷土博物館編 2001『ものづくりの考古学—原始・古代の人々の知恵と工夫—』 東京美術
- 大矢昌彦 1977「石棒の基礎的研究」『長野県考古学会誌 28』長野県考古学会 pp. 19-44
- 小熊博史 2015「北陸系彫刻石棒の事例」『月刊考古学ジャーナル №678』ニューサイエンス社 pp. 8-12
- 長田友也 2012「石棒の製作と流通」『季刊考古学 第119号』株式会社雄山閣 pp. 79-84
- 長田友也 2013「石棒の型式学的検討」『縄文時代 第24号』縄文時代文化研究会 pp. 33-57
- 小島俊彰 1976「加越能飛における縄文中期の石棒」『金沢美術工芸大学 学報 第20号』金沢美術工芸大学 pp. 35-56
- 小島俊彰 1986「鏽をもつ縄文中期の大形石棒」『大境 第10号』富山考古学会 pp. 25-40
- 鈴木道之助 1991『国録石器入門辞典(縄文)』 柏書房
- 戸沢充則ほか編 1994『縄文時代研究事典』 東京堂出版

戸田哲也 1997 「石棒研究の基礎的課題」『堅田直先生古希記念論文集』真風社 pp.91-108
富山市教育委員会埋蔵文化財センター2007『縄文人の精神文化－富山市出土の石棒と石冠展－』〔解説パンフレット〕
益富壽之助 1987 『原色岩石図鑑（全改訂新版）』 株式会社保育社



石棒全体



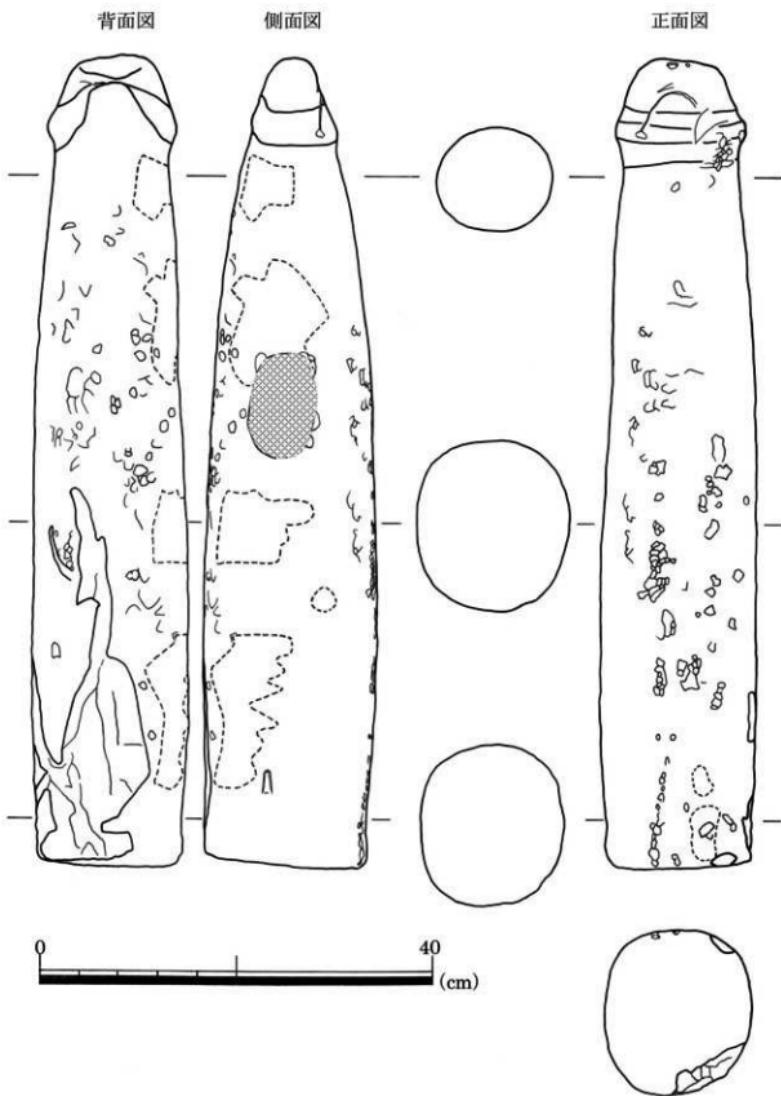
先端部のくびれ



中央部のくぼみ



石棒下端部



石棒実測図 ($S=1/5$)

注 1 : 網掛けは「くぼみ」を観察した箇所である。

注 2 : 破線部は黒色 (10YR 4/1 暗灰) に変色した箇所である。

注 3 : 赤褐色 (7.5YR 4/4 褐) の変色は石棒全般に広がる。

研究報告 2 西町地内埋没樹木について

堀内大介（主査学芸員）、高橋 敦・千葉博俊（パリノサーヴェイ）

1 出土状況

この埋没樹木は、富山市西町地内において実施された松川貯留管建設工事の際に発見されたものである。

出土地点は、富山城下町遺跡主要部（2011048）に含まれ、出土地点に隣接する「TOYAMAキラリ」ビルの調査では、地表下 1.0～1.6m で江戸時代の遺構を上下 2 層検査していた。

平成 27 年 1 月、空気抜き管の削進工事中に、地表下約 4～5m 付近で樹木にぶつかったため、これを切削し引き上げた後、2 月 2 日、この事実が富山市上下水道局下水道課を通じて知るところとなった。現地で引き上げた樹木の確認を行ったところ、自然木であることを確認した。

樹木は斜めに切断された状態で引き上げられていた。これは、横倒しになっていた樹木の一部を斜めに掘削していた掘削機が切断したからと考えられる。

地下から掘り出された埋没樹木は、直径 160cm 以上、長さ 90cm の幹部である。

この埋没樹木について、放射性炭素年代測定と樹種同定を行った。
(堀内)

2 自然科学分析結果

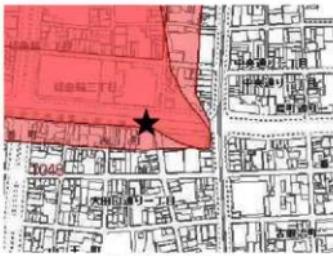
(1) 試料

分析に供された倒木試料は、丸木状を呈する樹木（直径約 60cm）より採取された最外年輪を含む木片である。木片には樹皮は確認できなかつたものの、肉眼および顕微鏡観察では樹皮直下に近い部分であることが確認された。本分析では、木片に観察された最外年輪を含む数年輪分を放射性炭素年代測定に供し、さらに残存する部分を樹種同定に供した。

(2) 分析方法

① 放射性炭素年代測定

測定試料に土壤や根等の目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄等により物理的に除去する。その後、HCl による炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOH による腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HCl によりアルカリ処理時に



埋没樹木出土地



埋没樹木出土時



埋没樹木断面

平行な線は工事切削痕

生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う（酸・アルカリ・酸処理）。試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500°C（30分）850°C（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650°Cで10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。

測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に¹³C/¹²Cの測定も行うため、この値を用いてδ¹³Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma:68%）に相当する年代である。暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1.0（Copyright 1986-2015 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い（¹⁴Cの半減期5,730±40年）を較正することである。暦年較正は、CALIB 7.1.0のマニュアルに従い、1年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値および北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正結果は $\sigma \cdot 2\sigma$ （ σ は統計的に真の値が68.2%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95.4%の確率で存在する範囲）の値を示す。また、表中の相対比は、 $\sigma \cdot 2\sigma$ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。なお、較正された暦年代は、将来的に暦年較正曲線等の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表された値を記す。

②樹種同定

木片の観察を行った後、剃刀を用いて木片より木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作成し、ガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）やWheeler他（1998）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995-1999）を参考にする。

（3）結果

①放射性炭素年代測定

倒木試料の同位体効果による補正を行った測定結果（補正年代）は2,500±20BPである。また、暦年較正結果（ 2σ ）はcalBC 774 - calBC 540を示す（表1、図1）。

②樹種同定

倒木試料は、広葉樹のクリに同定された。以下に、解剖学的特徴等を記す。

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.） ブナ科クリ属

環孔材で、孔圈部は3-4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、單列、1-15細胞高。

表1. 放射性炭素年代測定および曆年較正結果

試料	測定年代 (BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正年代 曆年較正用 (BP)	曆年較正結果						相対比	測定番号			
				σ	cal BC 762	- cal BC 746	cal BP 2,711	- 2,695	0.131					
富山市西町 地先 倒木試料 木材(クリ)	2,500±20	-27.66±0.26	2,497±24	σ	cal BC 686	- cal BC 665	cal BP 2,635	- 2,614	0.163	IAAA- 143609				
				2 σ	cal BC 643	- cal BC 553	cal BP 2,592	- 2,502	0.707					
				cal BC 774	- cal BC 701	cal BP 2,723	- 2,650	0.237						
				cal BC 696	- cal BC 540	cal BP 2,645	- 2,489	0.763						

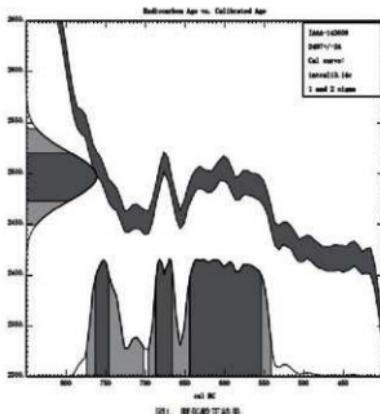


図1. 曆年較正結果

図2. 倒木試料出土地点(★:西町地先地点、●:千石町4丁目地点)
(国土地理院 地図情報データベース「富山」および土地条件図を使用)

(4) 考察

富山市西町地先より出土した倒木試料の放射性炭素年代測定結果に基づく較正曆年年代(2σ)はcalBC 774 - calBC 540であった。この結果について、小林(2009)などを参考とすると、本試料は縄文時代晩期後葉頃の資料と推定される。また、倒木試料は、広葉樹のクリに同定された。クリは、二次林などに生育する落葉高木であり、種実は収量が多く生食できることから、古くから有用植物として利用されている。

今回の倒木試料のような地中に埋没した樹木やいわゆる埋没林とされる樹木群の出土事例は、とくに入善沖の海底林や魚津の埋没林などが著名であるが、富山市域においても四方沖や神通川河口などで確認されており(本越・藤井1965; 藤井・奈須1988; 麻柄1992など)、いずれも沿岸部を中心で分布する。一方、富山市域では、上述した沿岸部より内陸部、本地点と同様に常願寺川扇状地の扇端付近にあたる千石町4丁目地内(図2)のGL-6m付近よりコナラ節やクリなどの落葉高木からなる樹木群が確認されている(高橋・千葉2015)。千石町より出土した樹木群は、一部の樹木(コナラ節)の放射性炭素年代測定により弥生時代中期の年代観が示されており、本地点の倒木試料より得られた年代観と概ね近似するほか、幹径が大径であるなどの共通点も指摘できる。また、これらの樹木群の出土地点は、土地条件図やボーリング調査結果などを参考とすると、かつての神通川や常願寺川扇状地を流下する河川の氾濫などの影響を受け易い領域であったと推定される。このことから、出土した樹木群は、おそらく集水域や調査地周辺の比較的安定した領域に分布した二次林などの森林に由来すると考えられる。

なお、本地点と千石町の樹木群が確認された地点は接しておらず、立地(土地条件)なども類似することから、一帯には同様の資料が保存されている可能性が考えられる。そのため、

今後も同様の調査事例を蓄積とともに、微化石分析などを用いた調査を行い、当時の古植生に関する資料の作成が期待される。

(高橋・千葉)

3 総括

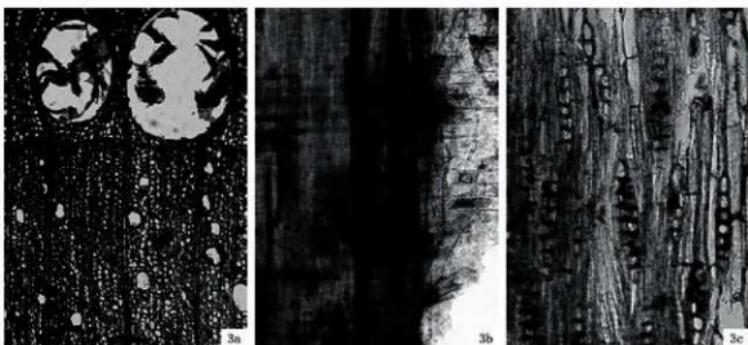
西町の樹木出土地点から約730m南西の千石町4丁目地内において、2,300年前の弥生時代中期の埋没樹木群（ブナ科のクリ属クリやブナ科コナラ属）が出土した。千石町4丁目出土樹木群は2,300年前の洪水によって倒木にあったと推測された。このことから、西町で発見した倒木樹木は、千石町4丁目の埋没樹木群よりも古い洪水によって押し倒されたものといえる。

千石町4丁目地内では、南西から北東方向へ進む複数の河川流路が確認されている。弥生時代中期にも洪水を引き起こした流路のほかに、縄文時代晩期に千石町4丁目を通り、西町方面へ進んだ別の流路があったと考えられる。

(堀内)

文献

- 麻柄一志 1992 埋没林のはなし－埋没林研究の歴史を中心として－. 魚津埋没林博物館, 81p.
- 藤井昭二・奈須紀幸（編） 1988 海底林 黒部川扇状地入善沖海底林の発見を中心として. 東京大学出版会, 163p.
- 林 昭三 1991 日本産木材顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫 1995 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫 1996 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫 1997 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫 1998 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫 1999 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 木越邦彦・藤井昭二 1965 射水平野とその周辺産の炭質物の絶対年代とその意義. 放生津潟周辺の地学的研究, 富山新港資料調査編Ⅱ-2, 第一港湾建設局伏木富山港工事事務所, 15-19.
- 小林謙一 2009 近畿地方以東の地域への拡散. 弥生農耕のはじまりとその年代 西本豊弘編, 新弥生時代のはじまり 第4巻, 雄山閣, 55-82.
- 島地 謙・伊東隆夫 1982 図説木材組織. 地球社, 176p.
- 高橋 敦・千葉博俊 2015 III 千石町地内埋没樹木群の自然科学分析. 富山市内遺跡発掘調査概要X
V—太田本郷跡・千石町地内埋没樹木群—, 富山市教育委員会, 34-39.
- 古川知明 2015 II 千石町地内埋没樹木群. 富山市内遺跡発掘調査概要X V—太田本郷跡・千石町地内埋没樹木群—, 富山市教育委員会, 32-33.
- Wheeler E.A., Bass P., and Gasson P.E. (編) 1998 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩 (日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P. E., 1989, IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].



3. クリ(倒木) a:木口, b:板目, c:板目

100 μm: 3a
100 μm: 3b, 3c

研究余話 I 富山県内の近代「病院」銘入り陶器瓶について

鹿島昌也
(埋蔵文化財センター主査学芸員)

はじめに

富山県内の2遺跡から出土した「病院」銘入り陶器瓶の意義について、筆者は平成27年5月の日本考古学協会第81回総会の研究発表にて紹介した(鹿島2015)。本稿では、その後新たに確認できた資料の調査成果を踏まえ、この陶器瓶の意義について改めて考察を行う。

1 「病院」銘入り陶器瓶の概要

富山城下町遺跡からは、これまでにA～Cの3地点から5点の「病院」銘入り陶器瓶の出土を確認した(表1)。

小矢部市五社遺跡からは越中丸山焼製とされる徳利が1点出土した報告がある(写真1の左・富山県文化振興財団1998)。

一方、平成27年7月に開催された越中小杉焼友の会にて、個人蔵の「病院」銘および「長谷川福光分病院」銘入りの陶器瓶を実見する機会を得た。富山城下町遺跡出土陶器瓶と比較検討した(写真2)。以下、各々の出土地点とその特徴をみていく。

(1)富山城下町遺跡

A 地点【2008b】

プレミスト總曲輪マンションが建つ地区で、富山城下町の武家地と町人地の間の「背割下水」に廃棄された近世以降の大量の陶磁器類の中から出土した。

A1は灰釉地の上に長石釉で「病院」の文字を重ね掛けしたものである。いわゆるイッチンの技法で文字が描かれる。同地区からは、この他に破片1点がある。類品としてA地点から「高村菴口」(口は房か局と推測される)の銘がある陶器瓶片を新たに確認した。

B 地点【2014d】

富山城外堀の埋め土から「病院」銘の陶器瓶が2点出土した。この外堀は明治20年代半ばまでには埋め立てられている。

B1はA1より艶のある灰釉地にやや崩して「病院」の文字を記す。この他に1点「病」の文字がみえる破片が1点ある。

C 地点【2013c】



図1 陶器瓶出土遺跡位置図



写真1 遺跡出土陶器瓶
(富山県埋蔵文化財センターにて)

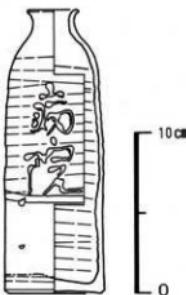


図2 A1陶器瓶実測図

背割下水から「院」の文字の一部が書かれた陶片が出土した。

(2) 小矢部市五社遺跡

発掘調査報告書では、越中丸山焼製とされる徳利に「病院」(やや字体が崩れた表記)銘が施された「薬瓶」が出土している(写真1)。

(3) 個人蔵

E1はこれまで確認した中で最大の高さ19cmを測る。『富山県陶磁器思考(1)』には、小杉焼四代陶山三十郎作と紹介されている(尾山2004)。病から院の字へ長石釉が繋がる筆体がD1の筆体に極めて良く似ている。

E2は唯一、外面が褐色の鉄釉を施す。「長谷川福光分病院」の銘を長石釉で記す。



写真2 個人蔵の陶器瓶(左2点)と富山城下町遺跡の陶器瓶(平成27年7月26日 越中小杉焼友の会にて)

遺跡名・地点	番号	規格(cm)			銘	備考
		口径	底径	器高(残存)		
富山城下町遺跡 A 地点	A1	3.0	6.0	17.5	病院	2010『富山城跡発掘調査報告書』 総曲輪四丁目・旅籠町地区優良建築物等整備
	A2	—	—	(7.2)	(病)院	
	A3	—	—	(6.2)	高村栄(房・局?)	
富山城下町遺跡 B 地点	B1	3.0	6.3	16.3	病院	2014d 旧総曲輪小学校跡地(第1期)
	B2	—	—	(6.4)	病(院)	
富山城下町遺跡 C 地点	C1	—	—	(5.0)	(病)院	2014『富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書』 一番町共同ビル(仮称)新築工事
五社遺跡	D1	—	6.6	(15.0)	病院	1998『五社遺跡発掘調査報告』
個人蔵	E1	3.0	6.7	19.0	病院	尾山2004 越中小杉焼友の会にて実見
	E2	3.0	6.0	15.7	長谷川福光分病院	

表1 陶器瓶観察表

2 富山県初期の「病院」の動向について

(1) 富山病院

北陸では明治3(1870)年に加賀藩立医学館(現金沢大学附属病院)、福井藩立魁病院が開設される(福永2014)。医学館は黒川良安(新川郡生まれ、長崎で蘭方医学を学び金沢で開業)が藩命で開設する。明治8(1875)年医学館が石川県に移管され、石川県病院となる。明治9年には新川県が石川県に編入されるが、富山から病院誘致の陳情が相次いだ。

富山県内に初めて開設された「病院」は、明治9年10月に富山市千石町にあった加藤貞知邸に「公立金沢病院富山分院」として仮設置される(『富山高岡沿革志』)。この加藤邸には、上新川郡役所や連隊区司令部なども仮設された。

その場所は、図4の富山市立図書館所蔵の地籍図を現在の地図と対比すると、千石町2丁目と同4丁目にまたがる一角に比定でき、近代富山の「病院」発祥の地が明らかになった。

その翌年11月、「石川県富山病院」と改称し、懇曲輪、現在の大手町(富山市民プラザ)に新築移転する(図3)。明治13年、富山病院内に「医学所」(現金沢大学医学部の前身)が設置される。同16年、富山県が誕生し、「富山県富山病院」と改称された同21(1888)年、

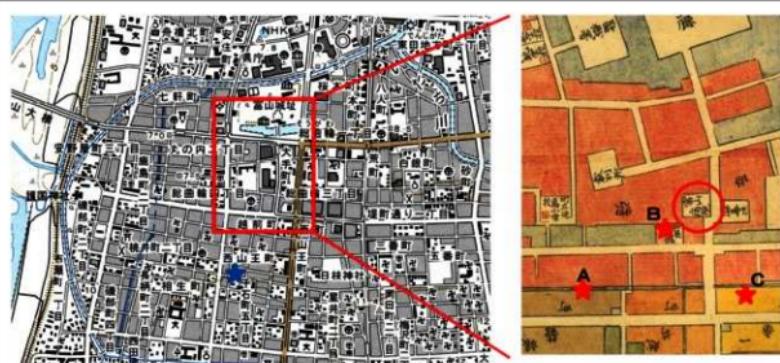


図3 富山病院の位置（丸印）と富山城下町遺跡の陶器瓶出土地点（★A～C地点）

左：平成 22 年、1 : 25,000 地形図（国土地理院） ★は千石町加藤貞知邸跡
右：明治 18 年、富山市街見取全図（富山市郷土博物館蔵）

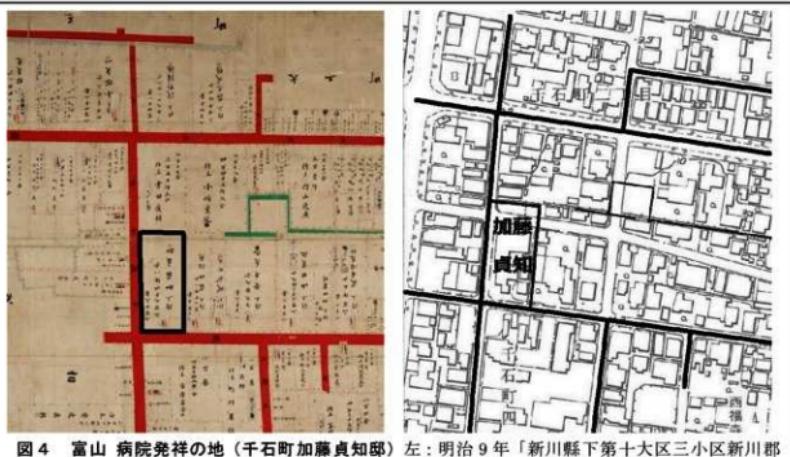


図4 富山 病院発祥の地（千石町加藤貞知邸）左：明治 9 年「新川縣下第十大区三小区新川郡富山千石町」（富山市立図書館蔵）右：平成 7 年「富山市基本図 VII-HE41-3」より（富山市）

県立から公立となり、「上新川郡立富山病院」となる。同 22 年、「上新川郡立富山病院」が「新婦富山病院」と改称し、新川郡と婦負郡の二郡立となる。同 24 年には、「新婦病院富山市立病院」となる。同 32 年までは、市内唯一の総合病院であったが、同年の市内大火で焼失する。同 40 年には日本赤十字社富山支部病院が開設される（水間 1979）。

A 1 は、「富山病院」から南西に約 150m と近接した場所から出土、B 1・2 はさらに近接した位置から出土した（図 3）。このことから「病院」銘の陶器瓶は、明治 10 年に移転新築された「石川県富山病院」あるいは B 地点で出土した外堀が明治 20 年頃まで埋められていることから明治 16 年からの「富山県富山病院」で使用されていた可能性が極めて高い。

(2) 長谷川福光分病院

一方、五社遺跡のある県西部では、伏木町（現・高岡市）に明治 14 年、県内最初の私立病

院である長谷川病院が創立する。同 18 年に今石動町（現・小矢部市）に石動病院、同 22 年には津沢町（現・小矢部市）に津沢病院が開設された（『小矢部市史』）。五社遺跡で出土した陶器瓶は、これらの病院に近接しているわけではない。

E 2 の陶器瓶に表記された「長谷川福光分病院」は伏木町に本院のある長谷川病院の分院で、『福光町史』によると明治 17 年に「長谷川病院福光分院」ができ、「血清」という療法を用いて内・外科の治療を行ったと紹介されている。この「長谷川病院福光分院」が陶器瓶に表記された「長谷川病院福光分院」で、同院にて使用するために製作されたと推測される。他の出土品などと異なり、外面に褐色の鉄釉が施され、器高も小振りである。

（3）高村薬（房・局）（写真 3）

A 地点から出土した「高村薬口カ」（□は房・局か）について、病院ではないものの、同じ灰釉を施す陶器瓶に長石釉にて文字が記されていることから、「病院」銘入り陶器瓶と同類の製品と判断した。大正 14 年『大日本職業別明細図之内富山市』（富山市郷土博物館蔵）の絵図には薬局や薬房の店名が記されているが、高村薬局・高村薬房は見当らない。『明治の富山をさぐる』には「（明治）三二年三月、山王町高村医院跡に、・・・共立医院を設けるまで・・・」とある（水間 1979）。この高村医院と高村薬口とに何らかの関連があったのだろうか。



A3

写真 3 「高村薬」銘入り
陶器瓶片

3 陶器瓶の产地

出土点数の多い富山城下町遺跡周辺の产地として推測される陶器窯は、越中瀬戸焼、越中丸山焼、小杉焼がある。

小矢部市五社遺跡出土の D 1 は越中丸山焼製との報告がある（県財団 1998）。一方、個人蔵の E 1 については、『富山県の陶磁器思考(1)』において小杉焼（四代）作と紹介されている（尾山 2004）（注 1）。

（1）越中丸山焼

富山市八尾町（旧婦負郡八尾町）丸山村の山本甚左衛門が京都の清水焼で陶技を学んだ後、尾張の陶工勇蔵と文政 13（1829）年あるいは天保元（1830）年頃開窯したとされる。富山藩は産業振興策のため援助し、嘉永頃磁器の焼成に成功している。安政（1858）年安政の大地震で打撃を受け、明治維新後藩の庇護を失い漸次衰退した。廃窯は明治 27 年とされる。

（2）小杉焼

文化 13（1816）年頃から明治 30 年頃まで四代に渡って焼き続けられた。初代と右衛門は相馬焼の技術を習得し、射水市（旧小杉町）へ帰って創窯した。天保年間には加賀藩から陶器所の免許を受け全盛期を迎えた。銅青磁とも言われる独特の銅緑釉や飴釉があり、瓢箪形徳利や鶴徳利、窓貫など酒器に名品が多い。文久 2（1862）年、陶山家を伝染病のコレラが襲い二代・三代の与右衛門が相次いで亡くなる。四代目三十郎は二代の弟で近代的な作品が多い。

近年、この 3 窯出土の陶片を実見する機会があった。私見ではあるが、胎土の特徴から小杉焼あるいは越中丸山焼のいずれかと推測される（注 2）。

（3）その他（福井・三国焼）

一方、福井県坂井市の三国焼（さくわ）から出土した陶片にイチヂク掛けによる「福井病院」銘の薬瓶とされる陶器片が展示図



写真 4 「福井病院」銘入り陶器瓶片

録（龍翔館 1987）にある（写真4）。現物は未確認であるが小瓶サイズとみられる。札場窯は明和5年（1768）年、業を継いだ札場嘉右衛門が京焼を伝習し、旧窯を改良、三国駅前に窯を移した。19世紀に最盛期を迎える、明治29年に廃窯となった。「福井病院」は石川県富山病院と同時期に石川県福井病院として開設、その分病院が坂井港に設置された。

4 時代背景

近代以前の薬品容器にはその耐腐食性から主に陶磁器を用いていたと考えられていたが、薬品容器であったと特定できる考古資料は極めて限られていた（小川 2013）。江戸や長崎などの遺跡からは唐薬貿易に用いられた磁器の中国製小瓶が出土する例もある（堀内 2010）。

各地に病院が設置される前の江戸時代は、幕府の徹底した鎖国政策によって伝染病の流入が少ない時期であった。しかし、明治初期になってコレラの大流行が起こるなど、各地で伝染病に対する防疫がなされた。明治10年にはコレラ予防に関する布告、同11年にはジフテリア予防心得が出され、同12年には種痘法が公布された。同19年、京阪神での流行を受けて富山県でも検疫を強化するが、県西部で発病者が出て年末までに県内の死者が1万人を超えた。対策として消毒液や予防接種液が配布される。伝染隔離病舎である避病院の設置も時代背景として見過ごせない。またコレラだけでなく、天然痘・腸チフス・赤痢と伝染病の流行が度々起こっている（『富山県史』）。

5 陶器瓶の用途

陶器瓶という形状から、何らかの水溶性の内容物であったことが推測される。病院で扱われるものに、まず薬が挙げられる。小矢部市五社遺跡の陶器瓶は薬瓶として報告されていた。

しかし、病院から処方される薬品容器には内容量の目印となる目盛りが付されていることや内容物が分かるような透過性、変質を防ぐための密閉性が求められる。さらに長期保存のために遮光性が求められるものもある。当時の容器には、ガラス製が普及し始めており、県内でも明治6年から売薬の容器や病院で水薬を入れる薬瓶などに広くガラス製品が使用されるようになった（『富山県史』）。これには、透過性のある透明なガラス瓶や遮光性の高い褐色・紺色のガラス瓶などがある（注3）。明治9年『薬舗心得草』には薬品を貯蔵する方法が細かく示されていることから、既に明治前期から薬品の種類によって容器の細分化が図られていた。陶器製の容器という性質上、遮光性は確保できるが、透過性や密閉性にはやや難点がある。

平成27年度の旧絶曲輪小学校跡地の発掘調査では、「富山病院」銘のあるガラス製の瓶が4点出土した（高さ7.0cm～7.5cm、口径1.5～1.7cm、底径3.0cm）。これは、先述した明治10～24年に所在した「富山病院」で使用されていた薬瓶である。このガラス製薬瓶の出土地点は「富山病院」があった場所に隣接している。加えて、明治40～42年にあった「日本赤十字社富山支部病院」と銘のあるガラス製の瓶（高さ8.2cm、口径1.6cm、底部長軸3.6cm、短軸2.5cm）も3点みつかった（図5・写真5）。

これらのガラス瓶は、「富山病院」や「日本赤十字社富山支部病院」の実在を物語る貴重な資料となるとともに、両病院ですでにガラス製の薬瓶が使用されていたことを裏付けた。薬をガラス瓶に保存するのは蘭学がもたらしたもので、ガラス瓶に入れて密封するということは西洋薬の普及を物語る。

その一方で、内容物は液体ではなく丸薬や粉末状の薬や薬種であった可能性も否定できない。江戸時代には、丸薬や粉末の薬は紙に包装されるのが一般的であった。紙は薬の「氣」を守り、湿「氣」の侵入を防ぎ、薬の最適の梱包材料であった（服部 2010）。薬籠とも呼ばれる印籠の容器に入れられ携帯されていた。明治に入るとガラス瓶にも粉末などの個体物を入れることがあった。当時の西洋薬では湿気に不安定な粉末をガラス瓶に入れるのは一般的であ

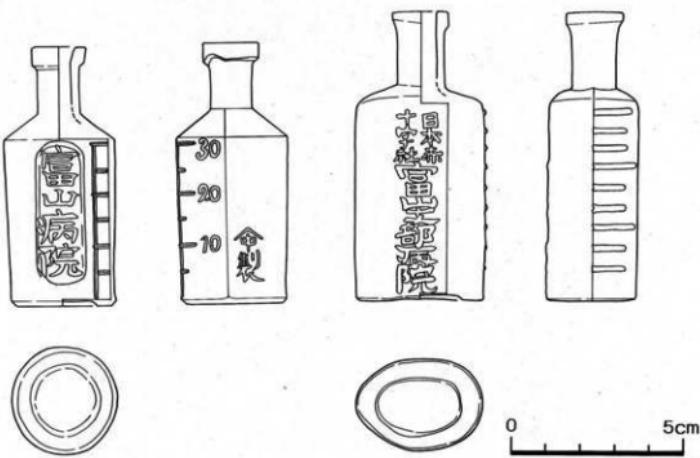


図5 ガラス製薬瓶実測図（左：「富山病院」右：「日本赤十字社富山支部病院」）



写真5 ガラス製薬瓶（左：「富山病院」右：「日本赤十字社富山支部病院」）

った。シーボルトはじめ長崎來訪者は粉末の医薬品をガラス瓶に入れて持ち込んでいた（服部 2015）。さらに前項で紹介したような時代背景から伝染病対策用としての用途も考えられる。消毒用の生理食塩水やアルコールの容器の可能性もある。現時点では、富山城下町遺跡から蘭引（はんひき）などの蒸留器は出土していないが（注4）、蒸留水や傷口の洗浄用蒸留酒などの保管容器としての可能性もあるだろう。

6 「病院」銘入り陶器瓶の意義について

江戸時代、藩の重要な産業であった売薬業は、明治以来昭和6年まで鉱工業生産物の中で常に一位であった。明治初年の富山市内の売薬人は約2,800名と推測されている。旧藩士で売薬に転ずるもの



写真6 蘭引

高さ 37 cm（富山市
売薬資料館蔵）

も増え、明治 20 年の富山町の人口は 51,302 人で、売薬関係者（製造、受売、行商）は、合計 4,442 人にのぼり、世帯数では 3 世帯に 1 世帯が売薬業に関わっていた（『富山市史』）。

文明開化、欧米化の風潮の中ではあるが、病院での治療費は決して安価ではなく、特に私立病院は名医の病院で治療費は高価であった。明治期の一般市民や貧困層への医療提供は江戸期に活躍した売薬人、薬業商や町の開業医が担当していた。

富山は売薬業が盛んな風土もあり、西洋薬や西洋の病院制度が普及しにくい背景もあったのではないか。そのような中、明治 4 年布達による「売薬取締規則」、同 7 年文部省による「医制」の制定、同 10 年太政官第七号で「売薬規則」が布告され、売薬への規制が強まる。伝統的で漢薬である売薬・薬種業が盛んな富山に、新たな感染症や疾病への対峙という課題に西洋薬を用いた西洋医学を浸透させるため、西洋式の「病院」からもたらされた内容物であることを P R する効果が求められていたとも推測される。

その一方で江戸時代、酒の販売に用いられた「通い徳利」のように、内容物を使い終えると容器の陶器瓶をまた病院に戻し、再び薬品などの容器として再利用される「通い薬瓶」なる利用の仕方も想定される。あるいは、酒店や薬局が病院用に酒などを販売した本来の「通い徳利」だったのだろうか。城下町遺跡で蘭引が見つかれば、酒店や薬局で蒸留された蒸留水や蒸留酒、焼酎を病院へ納品するための容器だったとも推測することができる。

実際の内容物について薬品か、蒸留水か、消毒液か、酒かの結論を導き出すことはできなかったが、「富山病院」銘のガラス製薬瓶の存在から、明治前期から薬瓶としてガラス製容器が使用されていることを確認でき、陶器瓶は薬瓶以外の用途の可能性が高くなった。

「長谷川福光分院」銘がある E 2 陶器瓶が使用されていた長谷川病院福光分院では、血清療法による治療が行われていた。血清はジフテリアなどの感染症の検査や治療に効果があった。長谷川病院創立者の医師・長谷川徳之は伝染病が頻発していた当時、防疫活動にも従事し、伝染病にも罹患したとの記録もあり（高井 2003）、毎年伏木町児童に無料で種痘を施すなど公衆衛生のために尽力していた（寺畠 1987）。この様な状況から、E 2 陶器瓶の用途を推測する手掛りが垣間見え、更には「病院」銘入り陶器瓶の用途の手掛りにもなるだろう。

富山城下町遺跡出土の「病院」銘入り陶器瓶は、「富山病院」の動向や陶器瓶の産地の操業期間から、明治 10～30 年の約 20 年の間に製作され使用されていたと推測される。その「病院」銘入り陶器瓶がなぜ県西部の五社遺跡で出土したのか。「富山病院」の様相を物語る資料に辿り着くことはできていないが、今回紹介した陶器瓶は、明治維新を経て伝染病の流行などの時代背景の中、医薬品の近代化や県内への西洋式病院システム導入期の実態を考古学的な視点から推測できる貴重な資料である。今後もこの陶器瓶に注目していただきたい。

おわりに

本稿の作成に際して、稻垣裕美・浦畑奈津子・小川望・大野淳也・兼子心・酒井重洋・重松めぐみ・鈴木裕子・針山康雄・福永肇・堀内秀樹・松本外与次・山内賢一の各氏、越中小杉焼友の会・富山県埋蔵文化財センター・富山市郷土博物館・富山市立図書館の各機関からご教示や資料の実見・掲載などにご配慮いただいた。記して謝意を表したい。

注

- (1) 同書に小杉焼（四代）作として紹介された戰勝徳利（鶴徳利）が近年、小杉焼でない可能性が指摘された（2015『越中小杉焼友の会資料 第 11 号』）。E 1 陶器瓶も検証が必要だろう。
- (2) 小杉窯・越中丸山窯・越中瀬戸窯製品（碗）の胎土の特徴を示した（高木・鹿島 2016）。
- (3) 内藤記念くすり博物館の稻垣裕美氏、中富記念くすり博物館の重松めぐみ氏からご教示
- (4) 江戸加賀藩邸上屋敷東端（富山藩邸との境目付近）にて江戸期（19 世紀）の蘭引が出土し

年代	ことがら
江戸	
文化 13(1816)年	小杉焼操業を開始する
文政 12(1829)年	越中丸山焼操業を開始する
安政 5(1858)年	安政大地震
明治 元(1868)年	明治維新
9(1876)年	新川県が石川県に編入
10(1877)年	千石町加藤貞知邸に公立金沢病院富山分院仮設置
13(1880)年	石川県富山病院と改称し現在の大手町に開設
14(1881)年	富山病院内に医学所設置
16(1883)年	伏木町(高岡)に長谷川病院(県下最初の私立病院)
17(1884)年	富山県設置
18(1885)年	福光町に長谷川病院福光分院開設
22(1889)年	今石動町(小矢部)に石動病院開設
	上新川郡立富山病院が新婦富山病院と改称
	津沢町(小矢部)に津沢病院開設
	この頃、富山城外堀が埋め立てられる
24(1891)年	新婦病院富山市立病院として開業
27(1894)年	越中丸山焼廻窯、30年頃小杉焼廻窯
32(1899)年	富山市内大火、新婦病院焼失
40(1907)年	日本赤十字社富山支部病院が開設される

表2 富山県初期の病院と陶器窯の動向に関する年表

た(小川2014)。「病院」銘の陶器瓶はいずれも細身で、蘭引の注口からの受けに合う。

文献

- 赤祖父一知 1993 「『石川県富山病院・同医学所』について」『医譯』第64号
- 小川望 2013 「医療と衛生」『事典 江戸の暮らしの考古学』古泉弘編 吉川弘文館
- 小川祐司 2014 「加賀藩邸から出土した蘭引」『東京の遺跡』No.100 東京考古学談話会
- 太田雄寧 1876 『薬舗心得草』
- 小矢部市 1971 『小矢部市史 下巻』
- 尾山京三 2004 「富山県の陶磁器思考(1)「藩政時代～昭和終戦年代」」㈱シンクハウス
- 鹿島昌也 2015 「富山城下町遺跡出土「病院」銘入り徳利形陶器瓶の意義について」『日本考古学協会第81回総会研究発表要旨』日本考古学協会
- 金沢大学十全同窓会 2012 『金沢大学医学部創立百五十周年記念誌』
- (財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 1998 『五社遺跡発掘調査報告書』
- 定塙武敏 1974 「越中の燒きもの」㈱巧玄出版
- 高井靖夫 2003 「県下初の私立病院創立者 長谷川徳之」『高岡の図書館』第69号
- 高木好美 鹿島昌也 2016 「富山城下町遺跡出土の流し掛け碗について」『富山市考古資料館紀要』第35号 富山市考古資料館
- 寺畠喜朗 1987 「長谷川徳之の事績と系譜」『医譯』復刻第55号
- 富山県 1981 『富山県史 通史編V 近代上』
- 富山新聞社 2001 『ふるさと富山歴史館』
- 富山市 1987 『富山市史 通史 下巻』
- 内藤記念くすり博物館 1982 『目で見るくすりの博物誌』
- 内藤記念くすり博物館 2008 『くすりの夜明け～近代の薬品と看護』
- 中富記念くすり博物館 1999 『中富記念くすり博物館 展示案内』
- 中川喜久江 1971 「富山藩医学史」『富山史壇』50・51号合併号 越中史壇会
- 西田尚紀 1972 「石川県(金沢)病院および医学所」『金沢大学医学部百年史』
- 服部昭 2010 『印籠と薬—江戸時代の薬と包装』風詠社
- 服部昭 2015 『薬包装の近現代史』風詠社
- 福永翠 2014 『日本病院史』㈱ピラールプレス
- 福光町 1971 『福光町史 下巻』
- 堀内秀樹 2010 「近世の薬種需要と唐薬貿易」『南海を巡る考古学』同成社
- 水間直二 1979 「明治の富山をさぐる—絶曲輪を中心として—」
- 龍翔館<三国町郷土資料館> 1987 『第6回 特別展「三国焼展」』

この間に「病院」銘陶器瓶製作か

近藤 順子
(埋蔵文化財センター専門学芸員)

はじめに

近年、中心市街地での再開発や民間開発に伴って、富山城下町遺跡の発掘調査が相次ぎ、近世富山城下町の様相が明らかになりつつある。武家・町屋敷を構成する造構で、井戸は最も残存しやすく、一般的に確認されるものである。ここでは過年度に行った富山城下町遺跡主要部の調査で確認された井戸に焦点を当て集成を行い、その変遷を辿りたい。

1 各地区的調査概要

(1) 2004 調査区

富山城南東で寛文期の修築を境に、17世紀前葉～中葉の町屋敷地から17世紀中葉以降武家屋敷地へ変更された場所。中級藩士岩田宇兵衛屋敷地。井戸は前者で2基、後者で2基確認した。

(2) 2005 調査区

富山城南側の北陸街道に北面した町屋敷と、北側の内堀に面する惣曲輪武家屋敷地。上級武士戸田屋敷。19世紀前半～19世紀後葉の井戸8基を確認した。

(3) 2008b 調査区

富山城南西側の北陸街道に北面した町屋敷・武家屋敷地。16世紀末～19世紀代の井戸12基を確認した。

(4) 2013a 調査区

富山城南東側の北陸街道に南面した町屋敷。商家・指物師の工房の所在が推定される。18世紀代～近代の井戸11基を確認した。調査区東側に井戸が集中し、取水に適した場所を選び継続利用したと考えられる。井戸の構造別分類を試み、4タイプに分けた。

(5) 2013c 調査区

富山城南側の北陸街道に北面した町屋敷・惣曲輪武家屋敷地。鍛冶工房の所在が推定される。17世紀代～近代の井戸5基を確認した。

(6) 2014a 調査区

富山城南側の惣曲輪武家屋敷地。17世紀代～幕末の井戸4基を確認した。屋敷境溝両側の狭い範囲に集中して井戸を構築する。井戸周辺の土壤分析から当時湿地であったことが分かり、屋敷の中で取水に適した場所を選地していたと考える。

(7) 2014e 調査区

富山城南側の北陸街道に北面した町屋敷・惣曲輪武家屋敷地と近世富山城外堀跡。漆工房の所在が推定される。17～19世紀代の井戸6基を確認した。井戸側板の加工痕と結桶結束用の竹籠の詳細観察を行った。

2 井戸の分類

7調査区から確認した井戸50基（表1）を、表2のように分類した。



富山城・富山城下町調査区位置図

番号	道標番号	平面形/幅員	井戸戸型	底板	導水施設	井戸底標高m (水位監視基準)	時期	タイプ	位置	備考	調査区
41 SE01	内筋	木製(木底よりタガ残る)	不明	なし		4.17前葉～中葉	A1b	町原敷地	井戸転用後土坑	2004 西町・北曲輪通り地区市街地再開発	
42 SE02	内筋	木製(木底以上)	なし	なし		8.17前葉～中葉	A1b	町原敷地	井戸転用後	2004 西町・北曲輪通り地区市街地再開発	
43 SE03	内筋	なし(木製? 繋ぎとりか)	不明	なし		8.417前葉～後葉	A1c	武家屋敷田畠	畜糞土坑跡	2004 西町・北曲輪通り地区市街地再開発	
44 SE04	内筋	なし(木製? 繋ぎとりか)	不明	なし		7.4以下	A1c	武家屋敷田畠	畜糞土坑跡	2004 西町・北曲輪通り地区市街地再開発	
45 SE17	横内筋	なし(木製? 繋ぎとりか)	木崩	なし		7.015前葉～19世紀	A1c	町原敷地		2005 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
13 SE18	不整内筋	石縫?	不明	なし		7.015前葉～19世紀	A1a	町原敷地		2005 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
14 SE31	内筋	なし(木製? 繋ぎとりか)	木崩	なし		6.615前葉～19後葉	A1c	町原敷地		2005 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
15 SE61	不整内筋	石縫?	不明	なし		7.115前葉～19後葉	A1a	武家屋敷田(芦田)		2005 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
16 SE71	不整内筋	なし(木製? 繋ぎとりか)	不明	なし		7.015前葉～19後葉	A1a	武家屋敷田(芦田)		2005 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
17 SE91	不整内筋	なし(木製? 繋ぎとりか)	不明	なし		6.615前葉～19後葉	A1c	町原敷地		2005 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
18 SE08	内筋	なし(木製? 繋ぎとりか)	不明	なし		-15前葉～19後葉	A1c	町原敷地		2005 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
19 SE09	内筋	なし(木製? 繋ぎとりか)	不明	なし		7.015前葉～19後葉	A1c	武家屋敷地		2005 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
22 SE18	内筋/内筋	石縫?	不明	なし		7.015前葉	A1c	武家屋敷地		2005 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
30 SE76	横内筋	木製(木底よりタガ)	不明	なし		6.315下	A1c	武家屋敷地		2005 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
31 SE28	未分類	なし(木製? 繋ぎとりか)	不明	なし		6.315下	A1c	町原敷地		2005 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
32 SE29	方筋	なし(木製? 繋ぎとりか)	不明	なし		6.515下	A1c	武家屋敷地		2005 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
33 SE37	方筋	石縫?	不明	なし		6.015下	A1c	武家屋敷地		2005 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
34 SE38	方筋	なし(木製? 繋ぎとりか)	不明	なし		6.615下	A1c	武家屋敷地		2005 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
35 SE39	方筋	なし(木製? 繋ぎとりか)	木崩	なし		6.515下	A1c	武家屋敷地		2005 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
36 SE40	方筋	なし(木製? 繋ぎとりか)	不明	なし		6.2517世紀以降	A1c	武家屋敷地		2005 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
37 SE44	内筋	なし(木製? 繋ぎとりか)	不明	なし		5.815下	A1c	武家屋敷地		2005 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
38 SE79	内筋	石縫?	不明	なし		6.415世紀	A1c	武家屋敷地		2005 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
39 SE83	内筋/内筋	木製(木底2段以上)	なし	なし		5.615下	A1b	町原敷地	上部構上に臺	2005 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
40 SE11	内筋	なし(木製? 繋ぎとりか)	不明	なし		6.315下	A1c	武家屋敷地		2005 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
13 SE01	内筋/内筋	木製	なし	なし		8.015前葉	A1c	町原敷地		2005 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
21 SE01	内筋/内筋	なし(木製? 繋ぎとりか)	木崩	なし		9.015前葉	A1c	町原敷地		2005 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
31 SK02	内筋	なし(木製? 繋ぎとりか)	木崩	なし		8.015前葉	A1c	町原敷地		2005 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
44 SK05	不整内筋	なし(木製? 繋ぎとりか)	木崩	なし		8.015前葉	A1c	井戸転用後土坑		2005 北曲輪通り南北区市街地再開発	
55 SK09	横内筋	木製(木底よりタガ残る)	なし	なし		7.815前葉	A1b	町原敷地	井戸転用後土坑	2005 北曲輪通り南北区市街地再開発	
6 SK10	内筋	なし(木製? 繋ぎとりか)	不明	なし		7.615前葉	A1c	町原敷地		2005 北曲輪通り南北区市街地再開発	
7 SE05	内筋	木製(木底3段以上)	なし	なし		7.015下	A1b	町原敷地		2005 北曲輪通り南北区市街地再開発	
8 SK07	内筋	木製(木底よりタガ残る)	なし	なし		6.015前葉～後葉	A1b	町原敷地	井戸転用後土坑	2005 北曲輪通り南北区市街地再開発	
9 SE02	内筋/内筋	木製(木底2段)	あり	あり		8.517(9)17世紀後葉	B	町原敷地	2方向の導水施設あり	2013a 西町城下地区市街地再開発	
10 SE04	横内筋/土柱	木製(木底1段以上)	あり	あり(竹箆)		9.1(17)世葉～19中葉	A2a	町原敷地		2013a 西町城下地区市街地再開発	
11 SE3	内筋/内筋	石縫?	あり	あり(鉄ハリ)		8.615(17)世葉～20前葉	A2b	町原敷地	金屋石製屏風倒	2013a 西町城下地区市街地再開発	
20 SE03	内筋/内筋	木製(木底1段以上)	あり	あり(竹箆)		6.815世葉～19中葉	A2c	町原敷地		2013c 一番町向ノル(駒込)新築工事	
21 SE06	内筋/内筋	木製(木底2段以上)	なし	なし		6.115世葉～19中葉	A1c	町原敷地		2013c 一番町向ノル(駒込)新築工事	
22 SE06	不整内筋	なし(木製? 繋ぎとりか)	不明	なし		6.115世葉～19中葉	A1c	町原敷地		2013c 一番町向ノル(駒込)新築工事	
23 SE01	内筋	石縫?	不明	なし		6.115世葉～19中葉	A1c	町原敷地		2013c 一番町向ノル(駒込)新築工事	
24 SE02	内筋	石縫?	不明	なし		6.115世葉～19中葉	A2b	町原敷地		2013c 一番町向ノル(駒込)新築工事	
25 SE039	内筋/内筋	石縫?	なし	なし		6.415世葉～19世紀	A1a	武家屋敷地		2014a 1番町山形石製レジンス建設	
28 SK052	不整内筋	なし(木製? 繋ぎとりか)	不明	なし		7.617世紀	A1c	武家屋敷地		2014a レベンシ山形石製レジンス建設	
27 SK053	横内筋	なし(木製? 繋ぎとりか)	不明	なし		7.617世紀	A1c	武家屋敷地		2014a レベンシ山形石製レジンス建設	
28 SK047	不整内筋	なし(木製? 繋ぎとりか)	木崩	なし		7.417世紀	A1c	武家屋敷地		2014a レベンシ山形石製レジンス建設	
45 SE110	内筋/方筋	木製3段以上	不明	なし		6.015下	A1b	武家屋敷地		2014e 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
46 SE242	内筋/方筋	木製1段以上	なし	なし		6.011前葉	A1b	南側敷地(町原1丁目)	背斜下水路道(以上埋められる)	2014e 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
47 SE248	内筋/横内筋	木製1段以上	なし	なし		6.015下	A1b	町原敷地		2014e 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
48 SE273	内筋/横内筋	木製1段以上	不明	なし		5.015下	A1b	武家屋敷地		2014e 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
49 SE281	内筋/方筋	木製2段以上	不明	なし		5.515下	A1b	武家屋敷地		2014e 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	
50 SE286	内筋/方筋	木製4段以上	なし	なし		6.015下	A1b	武家屋敷地		2014e 北曲輪通り南北区第一疊市街地再開発	

参考文献

- 富山市教育委員会 2005 「富山城下駅跡調査報告書」
 富山市教育委員会 2006 「富山城下駅跡調査報告書」
 富山市教育委員会 2010 「富山城下駅跡調査報告書」
 富山市教育委員会 2014a 「富山城下駅跡調査報告書」
 富山市教育委員会 2014c 「富山城下駅跡調査報告書」
 富山市教育委員会 2015 「富山城下駅跡調査報告書」

表1 富山城下町の井戸一覧

水源	構造	井戸側材質	数	立地による内訳
A:地下水	1:掘井戸	a 石組	6	町屋1/武家5
		b 木製 結桶組型(抜きとり跡含む) 底板なし	14	町屋10/武家4
		c不明 抜きとり跡不明	24	町屋8/武家15/不明1
	2:掘抜き井戸	a 木製 結桶組型 底板あり 竹製導水管	2	町屋2
		b 石製 金屋石 底板あり 金属導水管	1	町屋1
		不明	2	町屋2
B:上水	上水井戸 (溜井戸)	木製 結桶組型 底板あり	1	町屋1

表2 富山城下町 井戸分類

水源によって大きく2種に分けられる。地下水を水源とするものをA、上水を水源とするものをBとし、更に帯水層までの掘削方法によりA1・A2の2種に分類した。

(1) A1 タイプ

掘井戸である。人力により垂直に地下水面に達するまで縦穴を掘削し、崩壊しないように穴壁を井戸側で補強する。地下水位が浅い地域や地下水が豊富な地域において一般的に掘削されるタイプである。時期は17世紀前葉～19世紀後葉である。

更に井戸側の材質により、a 石組・b 木製・c 不明に分けられる。aは乱積み式石組型で、16世紀前後に日本各地で一般化し近世まで継続する。富山城下町では惣曲輪武家屋敷地で多くみられる。bは結桶組型で、近世に結桶の規格化・大量生産により積み上げ式井戸側の代表例として各地で盛行した。富山城下町では町屋敷に多く、a・bいずれも井戸底に曲物等の集水施設はみられない。cは井戸側が残存しないため不明とした。素掘り井戸も含まれるであろうが、掘方の形状や、このタイプの堆積土中から結桶の竹箍が残存確認されることから、井戸側を抜きとられたものが主であると考える。調査事例のほぼ半数を占め、廃棄土坑に転用されたものも含むことから、井戸廃絶時に井戸側材を抜きとることが通例となっていたことが伺える。抜きとり後の井戸側材の転用については、2014e調査区のSE110のように1段目と2段目に加工痕が異なる結桶を積み上げた事例もあり、今後検討をする。

(2) A2 タイプ

掘抜き井戸である。棒状のもので地上から帯水層まで穴を掘削し、差し込んだ水管の上に桶や鉢などの集水施設を設置する。江戸時代中期に大坂掘りが開始され、以後上総掘りの普及で工事経費の低廉化や衛生上の利点から主流となった。富山城下町では5基が確認されており、いずれも町屋敷に所在する。時期は18世紀後半～近代である。

(3) B タイプ

上水を水源とする上水井戸（溜井戸）である。このタイプは2013a調査区からSE02の1基のみ確認された。時期は17世紀後半～18世紀後葉である。2段目の結桶の西と南側に導水用の穴が開けられ、2方向へ分歧する桶筋が想定される。



石組の掘井戸 (A1a) 2014a 調査区



掘抜き井戸 A2a と A2b 2013a 調査区

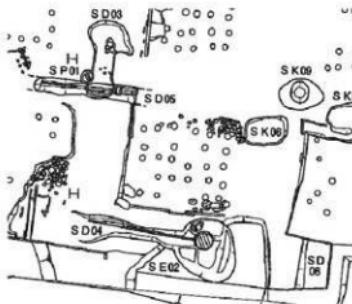
西方向から伸びる竹製の導水管を埋設した溝SD04は、SE04 西側穴を終点とする。導水管は終点が低くなるよう勾配を付けて埋設される。導水管は地下水の混入を受けない標高 8.5m を最低として設置し、導水管本体を白色粘土で被覆する。同様の導水管設 SD05 を SD04 南側に並行して確認し、東側の SK09 挖方から同溝の一部が確認されることから 10m以上の長さとなり、敷地内に上水施設が張り巡らされていたことが分かる。



上水井戸 SE02(B) 2013a 調査区

3 考察

A1 の掘井戸は各時期通有で確認される。富山城下町の地下水位は、標高 8m以下で帶水層、透水層は標高 6.0m 前後である。水源を地下水とする A1 の掘井戸では、標高 8m以下、更に豊富な水量を求めるのであれば井戸底は標高 6.0m以下の深度が望ましい。2013a 調査区の井戸分類では時期により井戸底に高低差がみられる。2008b・2014e 調査区のように時代が異なるが井戸底標高は一定の場合もあるため、立地により掘削深度が変化すると考える。



上水施設 (上が北) 2013a 調査区

一方、A2 の掘抜き井戸が北陸でが造られるようになるのは文化年間以降で、鑿井工法は大坂掘りと伝えられる。富山市内では文政 12 (1829) 年 5 月寺町の某寺で初めて掘られたとされる (富山市 1936)。今回確認した A2a の掘抜き井戸は 18 世紀後半以降で、いずれも北陸街道沿いの町屋敷での確認である。19 世紀中葉以降になると、当時のブランド石であった金屋石を井戸側に用いるなど、最新の工法を積極的に取り入れたのは、城下町一番の目貫通り北陸街道沿いの商家であったためだろうか。

B の上水井戸については、2013a 調査区の上水施設が同時期の掘井戸が集中する位置から離れており、飲用水以外の利用の可能性も考えられる。町屋の構造と合わせて検討が必要である。富山城下町における上水施設の発掘事例は少なく、この他には 2013c 調査区で町屋敷と武家屋敷地の境界である背割水路を潜るように埋設された木樋の一部が確認されている。さらなる事例の蓄積を待ちたい。

おわりに

富山城下町は水源に恵まれた環境にあり、富山城・城下町の調査では多数の井戸が確認されてきた。上水施設の確認が加わり、富山城下町は江戸や金沢のように高度な都市計画により構成された上下水道施設を持つ近世都市であることが分かった。今後、富山城三ノ丸の発掘調査成果を加え、城内を含めた水利施設の分類・近隣城下町との比較検討を進めたい。

文献

- 富山市 1936 『富山市史』富山市役所
- 宇野隆夫 1982 『井戸考』史林 第 65 卷 史学研究会
- 鏡方正樹 2003 『井戸の考古学』同成社
- 江戸遺跡研究会編 2011 『江戸の上水道と下水道』吉川弘文館
- 野中和夫編 2012 『江戸の水道』同成社
- 能城秀喜 2012 『上総掘り前史・大坂掘り三百年(3)』帝京平成大学紀要第 23 卷第 2 号 帝京平成大学

研究余話Ⅲ 上滝不動磨崖仏について

古川 知明

(埋蔵文化財センター所長)

はじめに

立山連峰から流れ出る常願寺川は、富山市上滝から下流に広大な扇状地形を形成し、その傾斜の急なことは日本有数である。扇頂部にあたる上滝地区において、高位段丘が発達し、その段丘崖の高さは数十mもある。

本稿で報告する上滝不動寺磨崖仏は、この段丘崖下部に彫刻された不動明王磨崖仏で、上市町日石寺の大岩不動磨崖仏の兄不動の伝承をもち、「上滝不動尊境内」として富山市史跡に指定されている¹⁾。本稿では「上滝不動磨崖仏」と呼称する。ここでは略測図を提示し、この磨崖仏について年代・意義等の再検討を行う。

1 史料・研究史

上滝不動磨崖仏に関する記述について表1にまとめた。18世紀前半までに、滝あるいは不動滝の記述が見えるが、不動明王あるいは上滝不動磨崖仏についての具体的な記述はない。その初出は、享保18年(1732)以降成立とされる『越中旧事記』である。岩山に彫付けた不動明王が存在し、すでに見分け難いほど劣化しているという。このことは滝の水や軟弱地質²⁾を考慮したとしても、かなり以前から存在したこと示唆する。上滝不動尊・不動滝・不動尊森などの具体的な構成要素は18世紀中ばまでに揃ったとみられる。その後幕末までに不動堂・不動池・不動碑が加わった。

明治38年浅地倫は、祠に入った不動尊の「石像」を紹介した『立山権現』。

金森久一は、上滝不動磨崖仏を大岩不動磨崖仏に先立ち刻まれたと推定した〔金森1937〕。

京田良志は、大岩不動磨崖仏の分析において、上滝不動は、形相や追刻の2像の配置あるいは伝説に至るまで大岩不動磨崖仏と一致することから、江戸末期から明治初期の作と考えた〔藤原1958〕。その後、3体の像の規模・様式を明らかにし、また、周囲に残る18世紀代の石造物の存在等から造像年代を見直し、18世紀代にすでに現在の前身となるものがあったと修正した〔藤原1960〕。

2 上滝不動磨崖仏の概要

(1) 現状 (写真1~4)

上滝不動磨崖仏は、東西16m、南北10mの滝壺の奥に、鉄筋コンクリート製覆屋の内部に保護されている。覆屋は滝壺面から高さ4.5mから立ち上がり、屋根高3.3m、奥の崖面で高さ約5mである。磨崖仏の壁面整形は、そこから約3m上から行われており、その上約3m



図1 上滝不動磨崖仏の位置
(1:25,000 明治44年地形図)



図2 『越中宝鑑』に見る不動堂・不動滝
(左上が大川寺)

和歴	西暦	事項・典拠	表現
神龜2	725	行基作不動尊	
応永2	1395	瀧社創建(祭神漸藏津姫神)	
応永2	1395	大川寺創建(『越中宝鑑』)	
永享10	1438	大川寺創建(真言から曹洞へ改宗)	不動守護?
明応元	1492	大川寺創建(『酒井家文書』)	
16世紀		板碑(キリーグ)	
元和元	1615	大川寺寺地寄進(八丁四方)・御寺鎮守森五百歩	山下に瀧の宮
万治2	1659	瀧社境内社市姫社	
?		『越中史徵』卷六	上瀧村 不動瀧
元禄15	1702	『温泉放集錄』卷三十一	上瀧村 不動瀧
享保18以降	1732	『越中旧事記』上瀧不動尊	不動明王瀧の落つる岩山に影付あるなり其像見分けがたし 瀧/不動尊森
延享元	1744	大川寺文書(『大山町史』)	
延享4	1747	燈籠寄進(四方新町本江屋九右衛門)	
安永8	1779	宝篋印塔造立	南無瀧大聖不動明王
文化文政	19c 前半	青木北海『越中地誌』卷三六 上瀧不動尊	越中旧事記云不動・像瀧/落ル岩ニ影付アリ其像正シク見 ワケ難シ
江戸期		上瀧周辺絵図(県図T092.93-29)	不動堂
明治初期		『大山町史』	金沢の石工を招いて以前の不動が滅びた後に造営したもの といふい伝え
明治31	1898	『越中宝鑑』『瀧脇山大川寺之景』(図2)	不動堂・不動堂拝殿・不動池・不動碑
明治36	1903	浅地倫『立山権現』	祠に安置せる不動尊の石像
昭和11	1936	金森久一1937『文殊寺山見学』	岩壁に高く刻まれた不動尊

表1 上瀧不動磨崖仏開闢年表

が自然崖面である。よって、頂上から瀧壺面までは約15.5mの高さがある。なお、この瀧壺及び覆屋は近代に造築されたもので、覆屋左右に3条ずつ龍頭から水が落ちる構造とされた。

壁面はやや内湾しており、覆屋天井で像部分全体が保護されているが、像よりの上の第一部と、左右の覆屋壁面の接触部は一部削られて損壊している。内部は大部分が剥落しており、天井部からの雨漏りも多く認められる。下部は崩落土が堆積し、草苔類が繁茂している。

(2)磨崖仏(図3、写真5~20) 3体を彫る。中央に主尊、両側に1体づつ脇侍がある。

①主尊 像高420cm、左右の肘幅430cm、台座高60cm。左右の耳を刻出する。左耳上部に辯髪の痕跡を残す。右肘を曲げている。光背部肩上に火焔光とみられる刻線2本が残存する。縦方向に筋彫も顕著である。方形の瑟瑟座上に右肘を張って坐する不動明王像か。

付随して顔の右にやや離れて円形を基調とする浮彫文様が見られるが、図案が特定できない。

②左脇侍 像高150cm、左右肘張130cm、蓮台高30cm。蓮台下の円形状の彫込みは雲文と推定される。頭光形式で、傘状の放射光がよく残る。右肩に衣文を刻出する。向かって右に来迎光の雲足を張り出す。来迎相の定印阿弥陀如來坐像で、雲・蓮台上に結跏趺坐する姿か。

③右脇侍 像高130cm、左右肘張106cm。右手を膝前に置き、左手は左膝の上に置くか。

頭部は剥落しているが、円頂で、左肩上に团扇形の持物を持つ僧形坐像と推定される。蓮台の下に茎状とみられる削り出しが明晰に見られるが、文様や構成は不明である。

3 周辺の石造物

瀧壺上に架けられた階段下は、6m×8mの敷地の中に、宝篋印塔・板碑・燈籠一対などの石造物と植栽がなされた一角がある。

(1) 宝篋印塔(図4、写真23~27)

不動寺境内にあたる磨崖仏直下には安永8(1779)年造立の宝篋印塔1基がある。上から相輪(九輪より上欠損)・笠・塔身(軸1・反花・軸2・請花・饅頭形)・基礎2段・基壇5段である。現存高313cm、復元高336cm(11.1尺)安山岩製である。軸2刻銘によれば、瀧

脇山大川寺 24 世祖山住職代に、弟子翁諱らが願主となって造立したものである。北となる正面には、滝の守護である不動明王への献奉を目的とするものである。左面は法華経回向文である。裏面には礎石経と經典 2 部を納めたとする。これらは基壇内部に納められた。なお祖山朗明は天明 3(1783)年死去している。

【正面】奉獻御寶前／南無瀧大型不動明王／寶篋印塔

【左面】願以此功德／普及於一切／我等與衆生／皆共成佛道：法華經引用〔回向文〕

【裏面】石經毫部紙經武部／奉納大乘妙經三部／内毫部羽根屋源三郎 圖寫

【右面】安永八歲亥二月初吉日／瀧脇山二十四世祖山和尚代／願主徒弟翁諱及十方施主

(2) 板碑 (図 5、写真 22)

宝篋印塔南側に自然石板碑 1 基がある。河川転石の 1 面をノミ整形 (ハツリ) により平面とし、その上部に直径 27cm (9 寸) の月輪を彫りくぼめる。中央上部には梵字キリークの陰刻がある。刻字は幅が細く、断面 U 字状に彫られる。キリークは中央より上にあり、左下と右下にはそれより小さい梵字のような彫り込みがあるが、明確に判読できない。それらの字形からみて、この三尊は、阿弥陀三尊ではなく、キリークを千手觀音とみた千手觀音三尊とみられる。左側面全体と右側面下部にノミ整形 (筋ノミ) を行う。頂部は前面からゲンノウによる小割取りを行い、頂部を円形に仕上げている。頂部は尖らせていらない。地上露出部分の高さ 62cm、最大幅 46cm、最大厚 25cm。年代は、富山市江本經塚の享禄 4 (1531) 年銘板碑と類似することから、16 世紀前半、戦国時代後期と推定される。

(3) 燈籠 (図 6、写真 28・29)

宝篋印塔南側に東西 2 基 1 対がある。四角柱の石柱に笠・宝珠を乗せるもので、原形は四角形燈籠と推定され、火袋・中台を欠失する。西燈の宝珠は後補品である。

笠の 1 面に「延宝四丁卯曆／奉寄進／九月吉祥日口 四方新町本江屋 九右衛門」と刻銘がある。延宝 4 年 (1676) 造である。本江屋九右衛門は、四方新村を村立した畔田九右衛門である。畔田氏は上滻出身で、九右衛門は大川寺信徒であった可能性がある。

(4) 石仏 (写真 30~32)

周囲には石仏が複数所在する。そのうち不動明王を彫る舟形石仏が 3 体存在する。

1 (写真 30) は、高さ 13.5 寸、幅 7.7 寸で、不動滝と磨崖仏の間の祠内に置かれる。この石仏は、塩照夫が聞き取りした滝壺跡から発見された石仏とみられる [塩 1983]。銘等はなく年代も不明。安山岩製。

2 (写真 31) は、高さ 22.5 寸、幅 13.2 寸で、石仏 1 の前に集積された石仏群の 1 体である。火焔光が強調されている。銘等はなく年代も不明。立山天狗山石製。

3 (写真 32) は、高さ 15 寸、幅 8.5 寸で、頂部が欠損し、本体上部が折れている。磨崖仏覆屋の前に置かれている。銘等はなく年代も不明。安山岩製。

4 考察

上滲不動磨崖仏の当初形態の復元を試みる。

現在、不動滝は磨崖仏から約 15m 東に所在する (写真 33)。これは滝上部で分水し、一方は隧道を掘り、上滲不動磨崖仏両側の滝水に導水し、もう一方は崖を削って現在の位置に流している。これらは近代の造作であって、明治以前はその中間の地点に滝が流れていたと思われる。この上部には小さな谷地形があり、また現在地表に大きな窪地痕跡が見られるところから、そこが滝壺であったと思われる (写真 34)。この情景は、『越中宝鑑』にみる不動滝の西に不動堂を描いた構図と同じである。今回調査では確認できなかったが、京田良志は建物に関連すると思われるホゾ穴の存在を報告している [藤原 1960]。上滲不動磨崖仏には日石寺のような覆屋としての堂建築があり、磨崖仏を保護していたと推定される。浅地が報告した堂に入った「石像」 [浅地 1905] とは、不動堂内の上滲磨崖仏のことを指すのである。

上滻不動磨崖仏は、上市日石寺の大岩不動磨崖仏と類似した特徴をもつ磨崖仏である。中央に不動明王坐像、左右に阿弥陀如来坐像・僧形坐像を配置する。大岩不動磨崖仏ではその外側にそれぞれ童子立像があり、当初の不動三尊に、坐像が追刻されたと理解されている。本例では現在童子像が欠失するが、存在していたかどうかは近代の改変のため確認できない。

これまで上滻不動磨崖仏は、大岩不動磨崖仏の模倣とされ、江戸時代に築造されたものと理解されてきた。阿弥陀如来像の後光の存在をもって大岩より後出的であるとすること、世の要素とする明治初期の改刻が伝承されていることなどの要素があるが、構成や像形文様の様式・光明さからみて、大岩不動磨崖仏と近い年代の製作と理解できよう。

これまで論じられてきた立山信仰における禪定道の区分、すなわち岩崎寺を起点として常願寺川を遡るルートと大岩日石寺を起点として上市川を遡るルートという2大ルートは、天台宗と真言宗という対置的な宗派の相違によるものであるという考え方〔高瀬 1981〕に基づいてきたが、前者の拠点を岩崎寺ではなく、対岸の上滻不動磨崖仏と理解すれば、両社ともに「不動明王磨崖仏」を起点とする共通した構図となる。また上滻不動磨崖仏は、曹洞宗大川寺の管理下にあるが、この寺は以前真言宗であった〔久保 1998〕ということに基づけば、両者とも真言宗という共通性も浮上してくる。このような二者の同一構図の存在について、再度検証すべきである。

また、大岩不動磨崖仏・上滻不動磨崖仏においては、それぞれ磨崖仏周囲に板碑や礎石経を包含する場所、大岩ではさらに京ヶ峰経塚を内包しており、それらの空間は一種の小靈場構造として把握される〔川又 2006〕。上滻不動磨崖仏では16世紀前半の板碑が存在することから、中世後期に小靈場化が開始されていたと推定される。

上滻不動、大岩不動とともに、古代の不動明王信仰に基づき造立されたことは、高瀬重雄により説明されている。不動明王は、「滻のある淨地に止住して、修行者を導く」者であり、山林抖擞の山岳信仰者を守護する性格からこれを帰依するものである〔高瀬 1969〕。このようなことから、信仰者あるいは修驗者らが立山禪定道を行く起点となる2か所に、清めと守護の祈願を目的として同じように不動明王の磨崖仏と滻を配置したことは、これまで指摘された立山信仰における不動明王との結合の構造を、改めて問い合わせる必要性を提起するものである。

おわりに

本稿作成にあたり、松浦正昭・西井龍儀・小松博幸・大川寺ご住職のご理解ご協力を得た。記して謝意を申し上げる(順不同・敬称略)。

注

- 1 昭和59年2月22日旧大山町指定。管理者：曹洞宗龍駒山大川寺。所在地：富山上滻字滻ノ沢割。
- 2 崖の地質として一様に砂岩質と報告されているが、帶磁率が高く、凝灰岩である。

文献

- 浅地 健 1905 『立山権現』中田書店
大山町史編纂委員会編 1964 『大山町史』大山町
大山の歴史編纂委員会編 1990 『大山の歴史』大山町
金沢市立玉川図書館近世資料館編 2007 『温故集録』三 金沢市図書館叢書(六)
金森久一 1937 「文殊寺山見学」『高志人』第2巻第1号 高志人社
川又隆央 2006 「靈場研究の方法」『遺跡研究の方法』東北中世考古学会
京田良志 1976 『越中の石造美術』富山文庫5 巧玄出版
久保尚文 1998 『室町前期、越後間の宗教交渉と政治情勢』『情報と物流の日本史』雄山閣出版
塙 照夫 1983 『越中の街道と石仏』北國出版社
高瀬重雄 1969 『古代山岳信仰の歴史と文化』角川書店
高瀬重雄 1981 『立山信仰の歴史と文化』名著出版
富山郷土研究会編 1932 『越中旧事記 前田氏家乘』中田書店
藤原良志 1958 「大岩不動の系譜」『越中史壇』14号 越中史壇会

- 藤原良志 1960 「富山県における形式的磨崖仏」『越中史壇』19号 越中史壇会
 文山純子・平井一雄 2015 「上滝不動尊」『北陸石仏の会々報』第48号
 松浦正昭 2007 「立山信仰と大岩日石寺磨崖仏」『富山大学地域連携プロジェクト 人文学部日本海総合研究プロジェクト』平成18年度公開講演会 北から登る立山信仰ー上市黒川遺跡群と大岩日石寺磨崖仏ー』講演資料集
 米原 寛 2008 「「劍岳信仰」をめぐる若干の考察」『富山県立山博物館』研究紀要 第15号
 渡辺市太郎編 1898 「越中宝鑑」(1973『越中資料叢書 越中宝鑑・越中地誌・越中旧事記』歴史図書社)

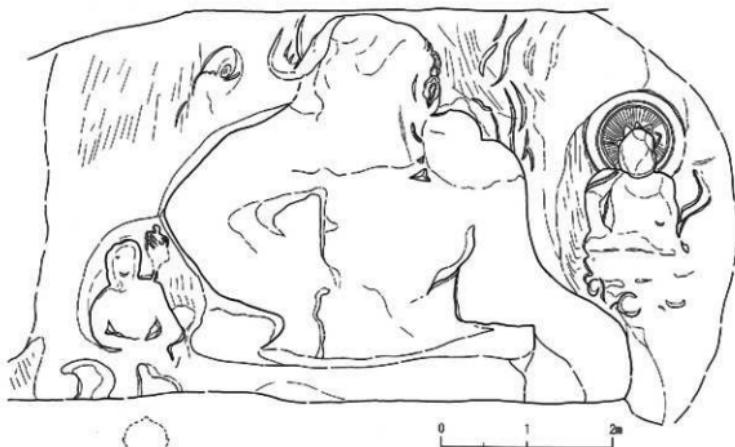


図3 上滝不動磨崖仏 略測図 (1:60)

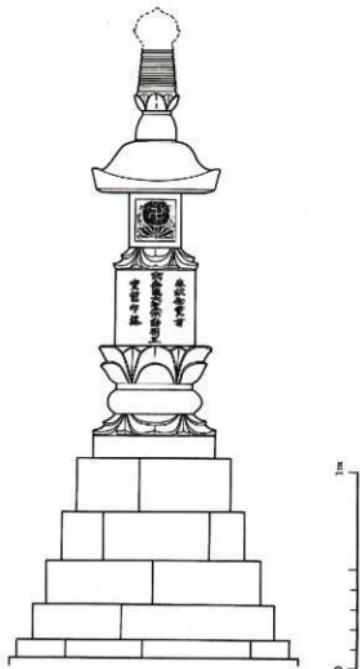


図4 不動寺境内宝篋印塔 実測図 (1:25)

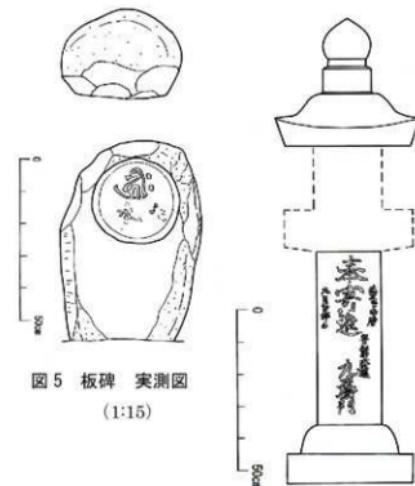


図5 板碑 実測図
(1:15)

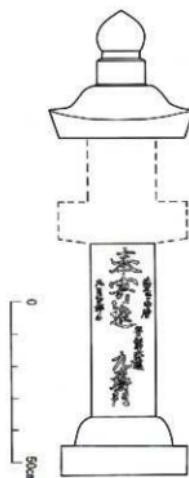


図6 燈籠 実測図
(1:15)



写真1 上淹磨崖仏・不動寺



写真2 上淹不動 全景



写真3 上淹不動 覆屋



写真4 磨崖仏前石標・板碑



写真5 中央仏（不動明王）上半部



写真6 中央仏 頭(右から)

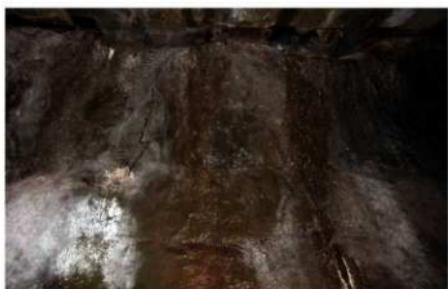


写真7 中央仏 上半

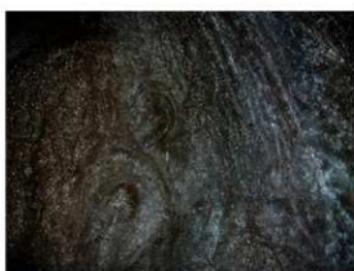


写真8 中央仏 左耳



写真9 中央仏左 不明文様



写真10 中央仏左 不明文様



写真11 中央仏 胸部右から



写真12 中央仏 下半部・台座



写真13 左仏 台座下彫り込み



写真14 左仏 持物（团扇）



写真 16 右仏 全体



写真 15 左仏 上半部



写真 18 右仏 頭光細部



写真 17 右仏 頭光



写真 19 右仏 台座(祥雲)



写真 20 右仏 来迎光の雲足



写真 21 宝篋印塔・燈籠



写真 22 板碑



写真 23 宝篋印塔（安永 8 年）



写真 24 軸 1
月輪+祥雲文+赤彩



写真 25 軸 2 正面刻銘



写真 26 燈籠（享和 4 年）



写真 26 軸 2 裏面刻銘



写真 28 燈籠 竿・基礎



写真 27 基礎 碳石経投入口



写真 30 舟形石仏 1



写真 31 舟形石仏 2



写真 32 舟形石仏 3



写真 34 旧滝壺跡推定地

白破線が滝壺跡推定地、現在の滝は写真の左側



写真 33 現在の不動滝

富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報

富山市の遺跡物語 第 17 号

平成 28 (2016) 年 3 月 31 日

編集・発行 富山市教育委員会埋蔵文化財センター

〒930-0091 富山市愛宕町 1-2-24

TEL.076-442-4246 FAX.076-442-5810

E-mail : maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp

印刷 前田印刷株式会社